

特223

301

森莊三郎教授講述

保 險 學

昭和十一年度東大講義

〔册分一第〕

版會行刊トシリブ京東

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5

始





森 莊三郎教授 保險學 目次

第一章

保險ノ性質 一

序説 一

保險學説 七

經濟學ニ於ケル保險ノ地位 二

保險ノ貯蓄 三

保險ノ保證 五

保險ノ慈善 六

保險ノ賭博 七

危險分散主義 二一

保險ノ可能範圍 二五

理論上ノ可能範圍 二六



第二章



第二章	二	实行上ノ可能範圍	三二
第三章	一	保險事業ノ淵源	三六
	一	互助的組合トシテノ淵源	三六
	二	營利企業トシテノ淵源	四〇
	三	公營事業トシテノ淵源	四一
第四章		保險者（保險事業ノ主体）	四四
第五章		被保險者	五三
第六章		保險料	五七
第七章		保險料（続）	六三
第一節		純保險料ノ附加保險料	七一
第八章		保險ノ分類	七四
第一節		生命保險契約ト損害保險契約	七九
		第三種ノ契約	七九

第九章		保險ノ效果	八七
第十章		私營保險業ノ監督	九四
第一節		會計事項	一〇二
	一	責任準備金	一〇二
	二	支拂備金	一〇七
	三	助成金	一一〇

保 險 學

森 莊 三 郎 教 授 講 述

第 一 章 保 險 ノ 性 質

一 序 説

(1)
吾々ノ經濟生活ハ私有財産制度ト自己責任ノ原則ニ立ツテ居ル。コ
ノ場合ニソノ生活ノ安定ヲ破ルトコロノ種々ノ事故ガ生ズル。例ヘ
バ、船ノ沈没ニ因ツテ積荷ヲ失ヒ、火災ノ爲ニ財産ヲ消失スル。或ハ
病氣又ハ死亡ノ爲ニ所得能力ヲ失フ等ノ如キ種々ノ事故ガ生ズルヲ免

レナイ。勿論之ニ對シテハ、ソノ豫防ニ努メルコトノ必要ハ云フヲ待
 タズ。一度事故ノ起ツタ後ニ於テモ、成ル可クソノ損害ヲ少カラシメ
 ル手段ヲ構ズル必要モ勿論デアル。然シ、種々ナル事故ノ爲ニ金錢上
 ノ損害ガ生ズルコトハ到底己ムヲ得ナイカラ、經濟生活ノ安全保證策
 トシテ他日ノ必要ニ對スル準備ヲナスコトヲ要スル。之ニツノ万
 法ガ考ヘラレル。今若シ、ソノ事故ガ確定的ノモノデアツタ場合、個
 人的ノ準備即チ貯蓄 *Savings* ノ方法ヲ備ヘルコトガ出末レ。例ヘバ、
 十年後ニ壹萬圓ヲ要スルナラバ、相當ノ積立金ヲナセバ足リルノデア
 ル。斯クノ如キ場合ニ、假令共同的準備ヲ爲スニモセヨ、實際ニ於テ
 ハ、個人的ノ準備ト少シモ異ナル所ガナイノデアリ。敢テ共同的準備
 ノ必要ハナイノデアル。之ニ及シ偶發的の事故ニ對シテハ、斯クノ如キ
 個人的準備デハ不完全デアル。第一ニソレハ時 (*Time*) ヲ要スル。然
 レニ事故ハ性質上偶發的デアリ、時ノ經過ヲ得ルコトヲ許サナイノデ

アル。

第二ニハ、ソノ準備ノ標準ヲ見出し得ナイノデアル。コノニツノ短
 所ヲ除イタ所ノ將來ノ準備方法ガ即チ保險デアル。試ニ保險契約ガコ
 ノ際アレバ、ソレガ有效ニ繼續スル限り、何時ソノ事故ガ生ジテモ豫
 定ノ金額ガ得ラレテ、ソノ損害ガ、填補セラレ、ソノ金錢ノ必要ニ
 當テルコトガ出末ルノデアル。又ソノ被保險者ガ負擔スル保險額ハ一
 定額デアル故ニ、之ガ即チ將來ノ準備ニ必要ナ準備額デアル。

斯クノ如キ理由ニヨツテ、保險トイフ制度ガ、極メテ古イ時代カラ
 自然ニ發達シテ来タモノデアレ、コ、ニ偶發的の事故ト云ヘルモノ、中
 ニハ、或ハ火災地震ノ如ク、ソノ發生スルマ否マ全ク不明ナモノデア
 ルノモアル。又ハ人ノ死亡ノ如クニソノ發生ハ確實デアルガ、ソノ時
 ノ不明ナモノ、又ソノ偶然性ニハ程度ガアツテ、或ルモノハ殆ド豫測
 ヲ許サミル程度ノモノモアルガ、中ニハ殆ド確實ニ近イト云フモノモ

アル、從ツテ後者ノ如キモノヲ内容トスル保険ハ、保險的要素ガ極メテ薄イノデアツテ、殆ド個人的貯蓄ト異ラザルモノモアル。例ハバ、青年時代ノ死亡ノ率ハ極メテ低イノデ、今後短期間ニ死亡スレガ如キモノ極メテ少ク、從ツテ今後數年間生キ長ラヘル *Probability* 1/100%ニ近イ。從ツテ若シ一年後ノ生存者ニ又圖ト云フ金ヲ與ヘルコトヲ目的トスル保険料ハ殆ド又ソノモノデアルカラ、コノ場合ニ保險ト貯蓄トノ間ニ多少ノ差異アルニセヨ、事實殆ド同一ト考ヘ得ラレル。

儲問題ハ、何故ニ保險ト云フ制度ガ斯クノ如キ效果ヲ生ズルカトイフニ、ソノ理由ハ「大數ノ法則」ヲ理解スルコトニヨツテ自ラ明ラカデアアル。小數ノ觀察ニヨツテハ、真相ガ明ラカデナイ出来事ニ對シテモ、大數觀察ニヨツテ、ソノ間ニ一定ノ秩序、又ハ法則ノ存在スルコトヲ認め得ルモノデアツテ、保險ハ共通ノ危険ヲ感ジテ居ル多數ノ人ガ一ツノ團體ヲ形成シ、共同ノ出資ニ依リテ共同ノ基金 *Common fund*

ヲ依リ上ゲル。コノ出資額ハ、過去ノ經驗ヲ統計的ニ研究セル結果トシテ得ラレタ *Probability* ヲ標準ニシテ、合理的ナ金額ヲ算出シ、各々ノ人ガソノ危険ノ割合ニ應ジテ公平ナ負擔ヲスル。然ル時ハ、コノ共同基金ガ各員ノ必要トスル金額ヲ「度償」ヒ得ル様ニ準備スル事ガ可能デアアル。即チ大數ノ法則ガソコニ働クノデアアル、之ニ依テ見レバ、保險ハ共同的準備又ハ社會的準備ト云フコトガ出来ルノデアアル。

之ニ依ツテ見ルト第一ニ保險ガ如何ナル場合ニ行ハレルカト云ヘバ、偶然ナル事故ノ發生ニヨツテ、損害ノ生ズル畏レノアル場合ニ對スル準備トシテ行ハレル。第二ニ如何ナル方法ヲ行ハレルカトイフニ、之ハ後述ノ如ク、研究ノ立場ニ依テ用語ヲ異ニスル事ニナルガ、社會經濟的見地カラ見ルナラバ、前述ノ如ク、多數經濟主体ノ共同的準備ト見ルコトガ出来ル。又之ヲ被保險者タル個人ノ立場カラ見ルトキハ有償的ニ損害ヲ他人ニ轉嫁スル方法ヲ行ハレルモノトミルコトモ出来ル。第三ニ保險ニ依テ達セラレル目的ハ何デアアルカト云ヘバ、經濟生活ノ

安定ト云フコトデアル。保險ノ定義ヲ述ビルニ當リ、色マナ立場カラ之ヲ觀ルコトガ出來ル。

社會經濟。一名國民經濟トモ云ハレテキル立場カラ觀ルトキニハ、前述ノ如キ、一ツノ危險團體即チ共通ノ危險ニ曝サレテ居ル多數ノ經濟主体ガ、ソノ危險ニ對スル準備トイフ *provision* ニ依ツテ、保險者ヲ中心トスル一ツノ團體ガ作ラレテキル、ソシテソコニハソノ金銀上ノ必要ヲ充ス為ニ共同ノ基金ガ、備ヘラレテ居ルモノデアルト觀ルコトモ出來ル。然シ、之ハ保險ト云フモノヲ人類ノ共同生活ノ上ニ表ハレテ居ル、一ツノ客觀的存在トシテ觀テ場合ノ有方デアアル。今若シ保險事業ノ主体、即チ保險者ノ立場カラ、一ツノ(經營)事業經濟ノ立場カラ之ヲ眺メルナラバ、一定ノ對價ヲ取ツテ、他人ノ經濟ニ生ズル損害ヲ引受ケル所ノ事業デアルト觀ルコトガ出來ル。或ハ保險者ハ多數ノ經濟主体ノ間ニ損害分擔ノ仲介ヲ為スコトヲ業トスルモノデアルト考ヘルコトモ出來ル、更ニ又之ヲ被保險者タル私經濟ノ立場カル眺

メルナラバ、上述ノ説明中ニ屢々表ハレテキル通りニ、個々ノ私經濟ガ、一定ノ保險料ヲ負擔スルコトニ依ツテ他日ソノ受クルコトアルベキ損害ヲ保險者ニ轉嫁スルモノデアリ、之ニ依ツテ、經濟生活ノ不安ヲ免レルモノデアルト考ヘルコトモ出來ルノデアアル。斯クノ如ク定義ノ立テ方ハ、着眼点ノ異ルニヨツテ當然差ヲ生ズルモノデアレ。從ツテ上述ノ種々ノ定義モ何レヲ是トスル事モ出來ナイノデアアル。動モスレバコノ注意ヲ忘レテ用語ノ上ノ論争ヲ生ズルモノアル。

二、保險學說

コ、ニ問題トナルノハ、損害ト云フ言葉デアアル。或ル事故ノタメニ物的損害ヲ生ジタ時ニ、之ヲ損害トミルコトハ最も普通ノ見解デアアル。而シテ又保險事業モ斯クノ如キモノニ對スル準備トシテ起テ来タノデアツテ、ソノ最も早くカラ發達シタノハ海上保險デアツテ、名稱ハ異

ナルモ實質ヲ同ジクスルモノハ紀元前カウ連綿トシテ存在シテ来タ、地中海沿岸各地ニ於テ、貿易ガ盛ニ行ハレ、ソノ海上ノ危険ニ對スル準備方法ガ、斯クノ如クニ發達シテ来タノデアル、而シテ十六世紀ニ入ルト、既ニ完全ナル海上保險事業ガイタリトシテ、各地ニ發達シテ来タノデアル。コノ場合ニ保險ハ財産上ノ損害ニ對スル準備デアルトカ、又ハ損害ヲ填補スルモノデアルトカ尙ヘルコトハ正當デアツタ。然ルニ後ニ到テ、保險ノ思想ガ他ノ方面ニモ及ビ、火災保險、生命保險等モ盛ニ行ハレル様ニナツタ。

扱一度生命保險、ソノ他人身ニ對スル保險ガ行ハル、ニ到テ、損害ト云フ言葉ガ果シテ適當ナリマ否マガ問題トナツテ来タ。之ニツイテ法律上ノ議論ヲスルナラバ、保險契約ニ關スル研究ニナル、而シテ或法律行為ガ保險契約ナリマ否マヲ決スルガ爲ニハ、物ニ關スル保險契約ハ從來ノ保險契約ノ觀念ニ適應スルノデアルガ、人身ニ關スル保險契約ハ斯クノ如ク一定ノ經濟價值ヲ測定スルコトガ困難、又ハ不能デア

ルガ故ニ、到底之ヲ從來ノ儘ノ思想ヲ律スルヲ得ズ、現ニ我國商法ニ於テミル如ク、損害保險ト生命保險トヲ全ク性質ヲ異ニセルモノト考ヘ、而モニ者共ニ保險デアルト云フガ如キ見解ヲトルコトヲ余儀ナクサレタ。然シ、之ヲ經濟學の見地カラ觀ルナラバ、實際世人ガ等シク保險ト稱セル所ノ事實ガ説明スル通りニ兩者ニ共通ナ性質ガ存在スル、ソレハ偶發的事故ニ對スル金錢ノ必要ニ備ヘル手段トシテ行ハレル共同基金作成方法デアルト云フ点デアル。コ、ニ於テ獨逸系統ノ諸國ノ學者間ニ保險學說ノ論争ヲ生ジタ。

ソノ一ツハ損害填補說デアル、之ハ勿論、物保險ノミナラズ、人保險ノ存在ヲ認メテ居ルノデアルガ、保險ノ發達ヲ歴史的ニ考ヘ、又世人一般ガ、保險ヲ如何ニ理解シテ居ルカトイフ点ニ省シテ、損害トイフ言葉ノ固有ノ意味カラ少シク廣イ意味ニ取ツテ、拘シクモ各々ノ經濟主体ノ收入支出ノ關係ニ於テ、支出トナルベキモノハ、アル意味ニ於テ之ヲ損害トイフヲ防ガナイ。例ヘバ祝賀ノ費用ノ如シ、又當然得

ラルベキ所得ヲ、アル事故ノ為ニ喪失又ハ減少スルコトモ等シク損害ト考ヘルコトガ出来ル。斯クノ如ク考ヘルナラバ、凡テノ金銭上ノ必要ヲ損害ト云フニ寧デ表現スルコトヲ防ゲザルニミナラズ、保險事業ノ沿革ニモヨク適合スルコトデアル。即チ海上保險ガ損害填補ノ目的デ起リ、之ト同ジ精神目的ノ手段ヲ他ノ方面ニモ次第ニ擴張シテ来タトイフ事實ヲ説明スルニ適當デアル。

經濟學上ノ他ノ多クノ場合ニ、危險ニ對スル保險料トイフガ如キハ屢ニ考ヘラレテキルコトデアル。コノ危險ト云フ言葉モ、ソノ固有ノ意味カラ稍ニ轉ジテ用ヒラレテキルノデアツテ、或ハアル場合ニハ事故ヲ指示シ又ハアル時ニハソノ事故ニヨル損害ヲモ意味スルノデアアルカラ、危險ニ對スル保險料トイフ思想ハ、即チ損害ニ對スル保險料ト同ジ意味デアル。斯カル方面カラモ、損害ト云フ觀念デ、保險ヲ説明スル事ハ正當デアルト云ハネバナラナイノデアアル。然ルニ之ニ反對スル新ナル説ハ、損害トイフ言葉ヲ固有ノ意義ニ解釈スルニ止メル。然

ル時ハ人身ニ生ジタ、アル事實ノ為ニ金銭ノ支出ヲ必要トスルガ如キ場合ヲコノ内ニ含メルコトハ不當ニナル。然シ、人保險モ元ヨリ保險ニ相異ナイ故ニ、凡テヲ總括シテ説明スルタメニハ、將來ノ欲望ヲ充足サセル準備手段ガ保險デアルト説明スル。コノ欲望充足説ナルモノハ一九世紀中頃以後ニ獨逸系統ノ諸國ノ經濟學者ガ、經濟學ヲ講ズルニ當リ、先ヅ、人ノ欲望カラ初メテ事ト關係ヲモツテキルノデアアル。然ルニ之ニ對シテ一ツノ修正ガ加ヘラレタ。ソレハ我々ガ金銭ノ支出ヲ余儀ナクサレル場合ハ多クハ欲望カラ起ルノデハアルガ、必ズジモ欲望トハ考ヘラレ又支出ガアル。例ヘバ相續稅支拂ノ如シ、從ツテ、欲望ノ代リニ入用充足説ト改メタモノガアル。コノ説ガ現在獨逸系統諸國ニ可成リ有力ニ唱ヘラレテキル。吾國ニハ之ヲ需要充足説トシテ唱ヘテキル人モアルガ、需要トイフ言葉ニハ需要供給トイフガ如ク、既ニ確定的用法ガアルノデアアルカラ、之ハ翻譯上不適當デアリ、寧ロ入用充足説ト名付クルヲ適當トスルト云ハレテキル。今コノニ説ヲ看

ルノニ、何レモ正當デアツテ而モソノ内容ニ少シノ差モ見出スコトハ出来ナイ。只損害説ハソノ損害ナル言葉ノ内容トシテ凡ユル場合ノ入要充足ヲ考ヘテキルノデアアル。只用語ガ簡潔デアリ而モ沿革上並ビニ世人ノ普通ノ理解ニモ適當デアルト云フ点ニ特別ナ考慮ヲ拂ツテアルニ過ギナイト思フ。

三、經濟學ニ於ケル保險ノ地位

保險ノ經濟學上ノ地位ヲ考ヘテ見ルト、從來一般ニ經濟學總論ノ研究ガ、生産・交換・分配・消費ノ四ツノ方面ニ分ケラレテキル。コノ際或人ハ之ヲ消費ノ部デ説明スル。ソノ理由ハ將來ニ對スル準備ト云フ意味ニ重キヲ置イタモノデアラウ。又生命保險ノ如キ主トシテ消費經濟又ハ家庭經濟ニ關係深イモノニ重キヲイテ考ヘテキルト思ハレル。又或人ハ分配ノ所デ之ヲ研究シテキル。之ハ主トシテ社會保險ニ着眼セルモノデ、之ガ社會政策ノ一斑トシテ行ハレアル点ニ着眼セルモノ

デアラウ。又或人ハ、之ヲ交換篇デ研究シテキルガ、之ハ主ニ海上保險ニ着眼セルノデアツテ、海運業又ハ商業等ガ、交換ニ關スル問題デアルカラ、ソレニ伴テ行ハレル保險ガ即チ交換篇デ研究サレルコトハ當然デアアル。從來ノ例ヲミルト、生産篇デ保險ヲ研究シテキルモノハ見當ラナイ。然シ企業ノ經營ニ伴フ危険ヲ軽減スル所ノモノデアアルコトニ着眼スルナラバ、火災保險其他各種ノ生産的企業ニ關係ヲモツ種類ノ保險ハ生産ノ部デ研究スルニ値スルモノデアアル。要之ニ保險ハ經濟生活ノ各方面ニ關係ヲモツモノデアアルカラ、ソレヲ何レカノ部分デ取扱フトスルコトニ無理ナ点ガアル。從ツテコノ問題ハ、經濟生活ニ伴フ危険ノ除去即チ安全保障デアルト考ヘテ、經濟學ノ結論カ又ハ結論ニ於テ全体ニ關スル問題トシテ取扱フコトヲ適當ト思フ。

四、保險ト貯蓄

保險ノ性質ヲ明ラカニスル爲ニハ、是ト近イ關係ニアルモノト比較

研究スルコトが有益デアルト思フ。貯蓄ト保険トノ差ニツイテハ前述
 シタ。コ、ニ貯蓄トイフノハ、銀行預金ノ如キモノニ限ツタ譯デナク
 有價證券ヲ買入レルトク、不動産ヲ買入レルトカナドヲモ含ム意味デ
 荷モ個人的訂算ニ依テ將來ノ準備ヲナス所ニソノ特殊性ヴアル。之ニ
 反シ保険ハ後述スル如ク多数ノ經濟主体ノ間ニ共同利害關係ニ基イテ
 一ツノ危険團體ガ形成サレルノデアリ。ソノ必要トスル費用ヲ支辨ス
 ル爲ニ保険料ヲ共同ニ出資シ、之ヲソノ團體ノ共同準備財産トナス所
 ニ特色ガアル。

コ、ニ於テ所謂 *self-insurance* (自己保険) ナルモノガ問題ニナ
 ル。之ハ例ヘバ、多数ノ船ヲ持ツ汽船會社ガ、海上保険ノ契約ヲナス
 代リニ、相當ノ危険率ヲ豫想シテ、之ニ對スル積立金ヲナスガ如キ事
 モアル。コノ場合ニソノ被保險物又ハ被保險事件ガ多数ニ存在スルナ
 ラバ、ソノ間ニ自ラ大數ノ法則ガ動イテ、危険ノ平均ガ得ラレル。而
 シテ過去ノ經驗ガ將來ニ對スル指針トナツテ可成リ安全ナ積立金ガ行

ハレ得ル。然シコノ方法ハ、根本精神ニハ保險的要素ガアルガ、自己
 單獨ノ計算デアルカラ、ソノ危険又ハ損害ヲ他人ニ轉嫁サセルコトハ
 出来ナイ。即ケソノ名稱ニ拘ラズ貯蓄デアツテ保險デハナイ。

五、保險ト保證

保險トイフ言葉ガ通俗ニハ保證ト同意ニ用ヒラレテルコトモアル。
 ソノ間ニ如何ナル差アリマトイフニ、例ヘバ、債務ノ保證又ハ身許保
 證ノ如キ法律行為ガ、無償デ行ハレル場合ニハ、既ニコノ点ニ於テ差
 ヲ認メル。然シコレガ有償的ニ行ハレタナラバ如何デアラウカ、若シ
 之ガ一ツノ私的行為トシテ行ハレルナラバ、之ヲ保證トミルコトハ出
 来ナイ。元來保險トイフモノハ性質上多数ノ人ニ向ツテ、同種ノ行為
 ヲ繰返シテ一ツノ業トシテ、行フコトヲ特色トスルモノデアアル。從ツ
 テ若シ保證ト同ジ内容ヲ持ツ行為ガアツタトスルモ、之ハ民法上ノ一
 ツノ無名契約デアツテ保證デハナイ。是ト同様ニ前述ノ保證ノ場合デ

モ個々單獨ノ行為デアアル場合ハ、之ヲ保險トミルベキデナイ。然シ斯
 フノ如キ行為ガ、不定多数ノ人々ニ對シ、事業トシテ繼續的ニ行ハレ
 ルナラバ、明ラカニ保險デアツテ、實際ニ於テモ斯クノ如キ保護保險
 ニ屬スルモノハ存在スルノデアアル。例ヘバ、賣主ガ買主ニ數ヶ月ノ信
 用ヲ與ヘ、ソノ支拂ヲ期限付手形デ受取ルコトガアル。コノ場合貸倒
 レノ危険ガアル。殊ニ斯カル手形ヲ銀行ガ割引シタ場合ニ銀行自身ノ
 蒙ル危険モ考ヘネバナラヌ。斯クノ如キ *Made to Order* スル目的デ行
 ハレルモノハ *Credit Insurance* (債權保險) デアル。殊ニコノ保險
 ハ外國貿易ニ關シ多く用ヒラレルガ、輸出信用保險 *Export Credit*
Insurance ト名付ケラレル事モアル。歐洲戰後ニ於テ各國ハ販路ノ
 擴張ノ為ニコノ保險ノ必要ヲ認め、英獨ヲ初メ多クノ國デ、或ハ政府
 事業トナシ、或ハ特殊會社ヲ作ツテキル例ガ少クナイ。我國ニ於テモ
 輸出補償法トイフ名稱デ商工省ガ實際コノ保險ヲ行テ居ルノデアアル。
 又使用人ガ不正行為ニヨリテ雇主ノ蒙ル損害ヲ *Compensation* スル為ニ身

許保證人ノ代リニ、コノ損害填補ヲ保險會社ト契約スルコトガアル。
 之ヲ *Fidelity Insurance* (誠實保險) トイヒ、我國デハ之ヲ信用保險
 ト名付ケテ、多数ノ會社ガ之ヲ行ツテキル。又之ハ全國多数職業紹介
 所ニ於テ、就職ノ便宜ヲ計ル目的デ、特殊ノ契約ヲ保險會社ト結ンデ
 居ル。殊ニ大阪ニ於テハ職業紹介所ガ、特殊ノ組合組織デ之ヲ行ツテ
 キル。東京市モ計畫中デアアル。

六、保險ト慈善

保險ハ相互扶助ノ制度デアアルカラ慈善事業、又ハ社會事業ト似テ所
 ガアル。然シ後者ハ一方的ノ行為デアアル事、從ツテ扶助ヲ受ケル權利ヲ
 有シナイ点ニ於テ保險ト異ル。保險ハ有償的ニ行ハレ、從ツテ又保險
 金請求權ガ法律上存在スルノデアアル。コノ点ニ關シテ問題トナルニツ
 ノモノガアル。一ツハ英國及ビソノ植民地ノ多クニ於テ行ハレテ居ル
 養老年金制度及ビ他ノ諸國ニ行ハレテ居ル之ト同ジ性質ノモノデアアル。

之ハ國家ガ行フ貧民救助即チ慈善事業デアルガ、之ヲ昔ノ如ク單純ナ
 恩惠的ナモノトハ考ヘズ、ソノ國民ニ對シ、社會權ノ一ツノ証認トシテ
 之ニ法律上ノ請求權ヲ認メ、而モ公ノ費用ノ救助ニ伴フ公民權ノ剝奪
 等ノ制裁ヲ件ハザルモノトシテ居ル。之ハ、保險ニ甚ダ似タモノデア
 ツテ、他ノ國ニ於テハ、之ヲ社會保險ノ一種トシテ行ツテキル例モ多
 イノデアアル。然シテ、苟モソレガ國家ノ一方的給付デアル限リハ、
 是ヲ保險ト認メルコトハ出来ナイト思フ。

第二ニハ社會保險ニ於ケル多クノ例トシテ、ソノ保險料ノ一部ヲ被
 保險者ガ負擔スルト同時ニ、ソノ一部ヲ雇主ガ負擔シ、更ニ國家又ハ
 府縣ノ補助金ヲモ加ヘルコトガアル。謂ハバ、一部ハ保險デアツテ、一
 部ハ恩惠デアルト云フ場合ニ、之ヲ何ト考ヘルカトイフ問題デア
 ル。或ル人ハ之ヲ保險的性質ヲ有スル所ノ國家ノ一ツノ施設デアルトイフ。
 然シテ、今日ノ思想界ニ於テ、一般ニ之ヲ社會保險ト名付ケテ、保險
 ノ一種デアアルコトヲ怪シマナイ様ニ成ツテ来タ所ノ思想ノ變化ニ着眼

スルナラバ、之モ矢張り保險ノ一種デアルトミルコト適當デア
 ルカモシレナイ。然ラバ、保險ト慈善トノ間ニ如何ナル差別ヲ認
 メルカ、再
 ビ問題トナル。

七、保險ト賭博

保險ハ偶發的の事故ニヨツテ、一定ノ金額ヲ取得スルモノデア
 ル。場合ニ、ソノ保險料ト保險給付ノ間ニハ全体トシテハ等價關係ガ存
 在スルガ、是ヲ各個人ニツイテミル時ニハ、比較的少額ノ負擔ニヨツ
 テ、或場合ニハ多クノ金額ヲ取得スルモノデア
 ルカラ、射博的性質ヲ大イニ含
 んデ居ル。從ツテ賭博ト非常ニ似タ所モアル。元來保險契約
 ガ射博契約ノ一種デア
 ルコト疑ヒハナイ。然シテ賭博ト如何ナル差アル
 カトイフニ、財産上ノ事故ヲ取扱フ保險ニアツテハ、商法ノ三
 八五條ニ云フガ如クニ、正當ナル金錢上ノ利害關係ノアル場合ニ、
 ソノ生ズルコトアルベキ損害ニ對スル準備トシテ為ス所ノ保險ハ正當
 ナモノデア

アルヲ然シ、斯クノ如キ被保険利益ナクシテ保険ヲ契約スルナラバ、
商法ハ之ヲ無効トシテ居ルガ、コノ場合ハ明ラカニ賭博デアル。例ハ
バ松ガ何ラノ利害關係ヲ持タナイ運物ヲ焼ケタナラ、保険金ヲ得ルト
イフ契約ヲ為ス時ハ純然タル賭博デアル。

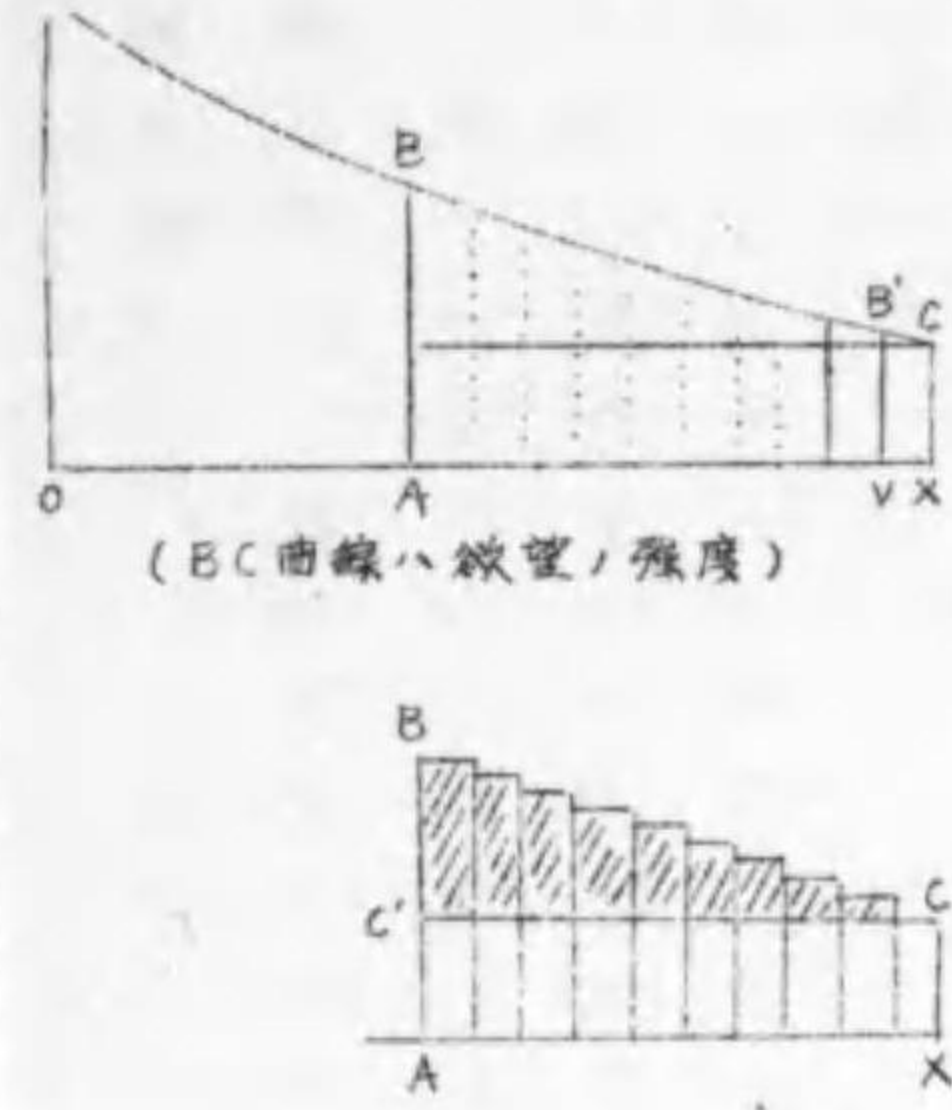
扱人身ニ關スル保険ニツイテハ、是等ト同ジ様ニ被保険利益トモイ
フニキ或ルモノ、存在ハ認めラレルノデアルガ、之ヲ經濟價值（金銭
價值）ニ評價スルコトガ困難デアル。商法ハ、生命保険ニ關シテハ、
被保険利益ノ存在ヲ必要トシテ居ナイ。故ニ若シ斯カル保険ヲ濫用ス
ルナラバ、賭博ト同ジ結果ニ立ケ到ラシメルコトガ出来ル。從ツテ保
險事業經營ニ於テ合理的注意ヲ加ヘル必要ガアル。コノ點ニ關シ、保
險ト賭博トノ區別ハ、唯之ヲ利用スル人ノ主觀ニ求メルヨリ外ハナイ
カモシレナイ。

ハ、危険分散主義

危険分散主義ハ、經濟生活ニ於ケル避害針デアリ、經濟生活ヲ安定
セシムル一ツノ方法デアルト云ハレテ居ル。アル場合ニハ之ヲ危険ノ
細分トミタ方ガ適當デアレコトモアリ、時ニハ危険ノ散布トシテ方ガ
適當ナ場合モアル様デアレガ、之ヲ併セテ危険ノ分散ト名付ケル。然
シテ又、危険分散ハ時ノ上ニ行ハレルコトモアリ、又所ノ上ニ行ハレ
ル事モアル。例ヲ舉ゲルト、資産ノ投資ニ當ツテ、一方面ノミニ集中
サレレ時ハ、ソノ事業ノ盛衰ニヨリ甚ダシイ影響ヲ蒙ル。之ニ及シ多
方面ニ投資ヲ分散サセテ置ケバ、一方面ノ事業ノ盛衰ガ、全体ノ上ニ及
ボス影響ハ比較的輕イ。全体トシテハ略々平均ニ近イコトニナル。又
一時ニ巨額ノ支出ハ困難デアレガ、多年ニ渡ツテ之ヲ少シク、支出ス
レナラバ、ソノ負擔ハ容易イ。是ト同様ノ理由ニヨツテ、例ハバ、農
業ノ經營ハ多角形的ニ經營スベキデアリ、一種ノ農作物ニ偏ヨルベキ
ニ非ズトモ云ハレテ居ル。又外國貿易ヲ多角形的ニ行ツテ販路ヲ分散

スルコトモソレデアル。今試ニ一ツノ場合ヲ圖ニヨツテ限界價値ヘ效
用) 説ヲ應用シテ説明スル。

説明——O×座ヲ金額トスル。今アル人ガY×座(座ノ高ニヨリ)ダケ
損失スレバ、YB×座ダケノ四邊形ノ損失トナル。若シ今ソノ例ヘ
バ、Y'×座ノ損失ヲ負擔セシムルトスレバ、Y'×座ノ損失トナ
ル。(上圖) 從ツテ斯カル細分化セラレタ負擔ヲ、多人数ニ分散シ
テ負擔セシムレバ、各個人ノ各々ノ負擔ノ重サハ一樣ニ平均サレル
事ニナル。(下圖(2)參)

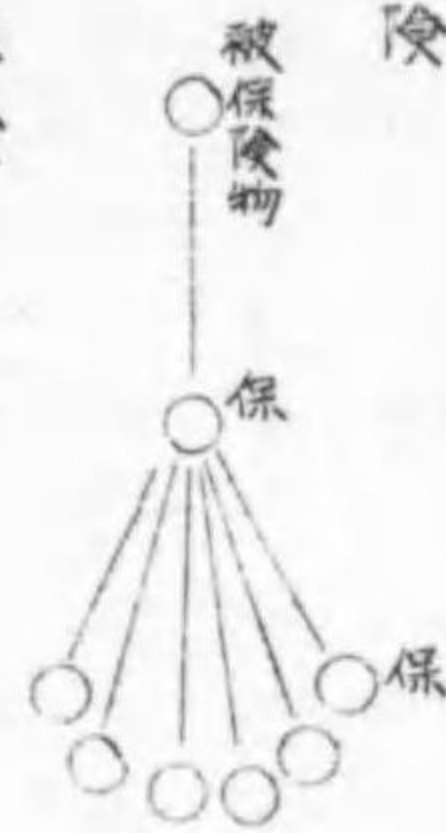


然ルニ保險ハ全ク是ト同ジ理論ガ實地ニ應用サレテ居ルト考ヘラレル。
例ヘバ建物ノ火災保險ニ於テ、毎年ノ保險料ハ比較的小額デモ(全國
平均五分ノ五位ノ程度)之ダケノ負擔ヲ繰返スコトニヨツテ、一度ニ
生ズル大ナル損害ヲ償フコトガ出来ルノデアル。而モ負擔スル保險料
ハ事業又ハ家庭ノ經濟ニ於テ、經常費トシテ、一ツノ支出項目ニ豫定
セラレ得レ所ノモノデアルカラ、コ、ニソノ經濟生活ヲ安定ナ基礎ノ
上ニ立タシメ得ルノデアル。然ノミナラズ、保險事業經營ソノモノガ、
常ニコノ危險分散主義ニ注意ヲ拂テ行ハレテキル。例ヘバ、一ツノ地
方ニ多クノ契約ヲ集中サセル時ハ、一ツノ事故ノ發生ニヨツテ、甚シ
ク損害ヲ蒙ル畏レガアルカラ、會社ハ營業ノ範圍ヲ全國又ハ全世界ニ
擴ゲルコトニ努メテ居ル。(家蓄保險) 又例ヘバ、一ツノ被保險物ニ、
多額ノ契約ヲ引受ケタ時ニハ、之ヲ多數ノ同業者ノ間ニ再保險ノ方法
ニヨツテ之ヲ分散セシム。一社ノ負擔ヲ小額ニ止メテキル。又資産ノ
投資ニツイテハ、保險業法施行規則ノ定ムル所ニ從テ多方面ニ分散シ

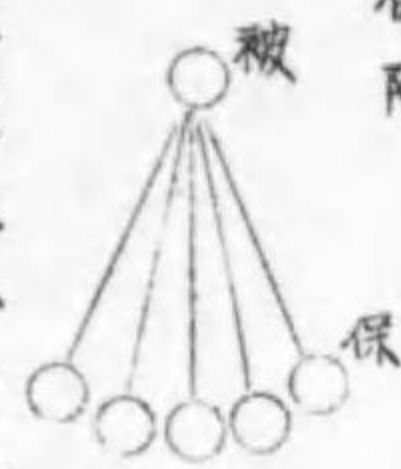
ヲ居ル。

(註) 危険分散ノ形式

(1) 再保険



(2) 共同保険



例 4 東京某ホテル

五拾萬圓ノ負擔ヲ十二會社ノ共同保險ニ附ス。

平均一會社ノ負擔四萬圓

5 東京某デパート

建物六百三十萬圓

四二會社

商品二百四十五萬圓

四〇會社

内 外國會社一四
内地會社二八

前述セル如ク危険分散ハ保險事業ニ限ツタコトデナク、凡ソル方面ニ必要ヲ認メラレ、又實現サレテ居ルノデアル。コノ場合ニ前述セシ大數ノ法則ト危険分散主義トノ關係如何ガ問題ニナル。危険分散ト云ヘバ、大數ガ豫想サレル。從ツテコ、ニ大數ノ法則ガ働クカラ、ソノ效果トシテ、危険分散若クハ經濟生活ノ安定ヲ齎ラスノデハナイカト思フ。若シ然ラバ、危険分散主義ハ、要之ニ大數ノ法則ノ發現スル一形式又ハ一方法ニ對シテ與ヘラレタ名稱デアルカモ知レナイ。

第二章 保險ノ可能範圍

保險ト云フモノハ、如何ナル範圍内ニ於テ行ハレ得ルカラ研究スル。之ニハ先ヅ、理論上ノ可能範圍ガ問題ニナル。然シ、一步ヲ進メテ之ヲ一ツノ事業トシテ實行スルニ當ツテハ、果シテ着實ニ行ハレ得ルマ否マ、

即ち事業ノ難易ガ問題ニナル。余リニ *speculative* ナモノデアレバ、ソノ實行ハ通例不可能デアアル。特ニ之ヲ必要トスル場合ニハ特別ノ考慮ヲ廻ラサネバナラヌ。

一、理論上ノ可能範圍

今コ、ニ理論上ノ可能範圍ヲミルノニ元來保險トハ如何ナルモノデアアルカトイフ保險ノ性質ヲ考ヘネバナラヌ。之ニツイテハ、學說上ノ爭ヒアルニモセヨ。大体ニ於テ保險ハ偶發的事故ニヨリテ、生ズル損害又ハ金銭的必要ニ備ヘル經濟上ノ制度デアルトイフコトニ對シテハ異論ハナイト思フ、之ニ依テミルト。第一事故ノ性質ニヨル制限、第二經濟問題デアルトイフコトヨリ生ズル制限、第三ニ保險料ノ計算ニ關スル技術上ノ制限ガ存在スル。最後ニ第四。今日ノ我々ノ生活ガ法律ノ範圍内ニ於テ行ハレルモノデアアルコトニ照ス時ハ、法律上ノ制限モ問題トナル。斯クノ如ク保險ノ可能範圍ニハ四方面カラノ制限ガア

ル。
第一ニ保險事故ハ、偶然ニ生ズルモノデアケレバナラナイ。ソノ中ニハ發生スルマ否マガ全ク不明ノモノモアリ。又ハソノ時期ダケノ不明ナコトモアル。ソノ事故ノ偶然性ヲ大數ノ法則ノ應用ニヨツテ、之ヲ除イテ反對ニ之ヲ確定的事故ト同様ニシヨウトスルコトガ保險ノ性質デアアル。一經濟主体ニトツテハ偶然デアルトシテモ、一團體トシテハ確定的事故ト考ヘ得ラル、所ニ保險ノ基礎ガアルノデアアル。從ツテ若シ確定的事故ニ對シテハ、保險ヲ行フ必要ヲ認メズ、個人的貯蓄ヲ以テ足ルノデアアル、假リニ之ニ對シテ保險トイフ名稱ヲ附シテ、保險会社ノ事業トシテ行フコトガアツテモソノ實質ハ保險ニ非ズシテ貯蓄デアアル。歐米ニ於テ減價削却積立金 (*sinking fund*) ヲ保險會社ガ保險ノ名稱ヲ行ツテ居ル例ガアル。之ハ唯昔カラノ慣例。又一方ニハ保險會社ガ長期ノ金銭取引ヲスルノニ適當ナ金融機關デアルトイフコト等ノ理由ニヨツテ事實上之ヲ行ツテ居ルニ止マルノデアアル。

第二ニハ經濟上ノ問題デアルトイフ方面カラ生ズル制限デアアル。即チ保險ハ金錢上財産上ノ損害ニ對スル將來ノ準備トシテ行ハレルモノデアルカラ、精神上ノ損害、例ヘバ名譽苦痛ナドヲ取扱フモノデハナイ、從ツテ例ヘバ火災保險ニ於テソノ填補スル損害ハ市價ニツイテ計算スベキデアツテ、ソノモノニツイテ純主觀的價値ヲ問題トスルノデハナイ、又疾病保險ノ如キハ醫療ヲ共ヘル、或ハ是ニ加ヘテ生活費近モ支給スルコトガアレケレドモ、肉體上ノ苦痛ヲコ、ニ考慮スルノデハナイ、從ツテ高法三ハ五條ノ如ク金錢ニ見積リ得ベキ利害關係ノミニツイテ保險スルコトヲ得ルトイフコトハ自明ノ理デアアル。但シアル場合ノ損害賠償ニ於テミルガ如ク、精神上ノ苦痛ヲ金錢ニ見積ルコトガナイデハナイ、斯クノ如キ場合ニソノ金錢上ノ價値ハソレヲ保險ノ内容トスルコトハ元ヨリ妨ゲナイコトデアアル。コ、ニ問題トナルノハ、前述ノ如ク生命保險ノ如キ場合ニ財産上ノ損害ニ具ヘルトイフ事ハ不適當デアルトイフ理由デ排斥シテ財産上ノ需要 Bedarf = 對シテ

備ヘルモノデアルトイフヲ適當デアルト云フ説ガアル。單ニ用語ノ上ノ争ヒニ過ギナク、ソノ精神ニ於テ違ヒハナイノデアアルコト前述ノ如クデアアル。例ヘバ人ノ死亡又ハ生存ヲ機會トシテ、金錢ヲ必要トスル事情アルコトヲ豫想シテ、ソノ金錢ノ支出ニ備ヘルタメニ保險ガ存在スレノデアアル、決シテ金錢ヲ以テ喜ビ、又ハ悲シミニモ代ヘルト云フ意味デハナイノデアアル、但シ保險ノ副産物トシテ、精神上ノ效果ヲ生スルコトモ事實デアアル。例ヘバ保險アルガ故ニ安心シテ生活スルコトカ或ハ保險金ニヨツテ幾分カ精神上ノ苦痛ヲ柔ゲル結果ガ生ズルコトハ通例見ル所デアアル、然シ是ハ保險ノ副作用デアツテ、決シテ之ガ主タル目的トナツテ保險ガ存在スルノデハナイ。

第三ニハ保險ノ技術上ノ制限デアアル、慈善トイフモノト異ツテ、保險ハ有償的制度デアルカラ、保険料ノ計算ヲ必要トスル、而モソレハ危険率及ビ損害ヲ受ケル可能性アル金額ナドニ比例シテ各自ガ負擔スベキモノデアアル。從テ保険料ガ過去ノ經驗ニ基イテアル程度迄確カニ

計算サレルコトヲ必要トスル。然シ是ハ程度問題デアツテ、ソノ
probability (確率)ガ計算サレテ居ルコトガ必ズシモ必要デハナイ。
 後述スル如ク、之ガ正確ニ解ルコトハ保険ヲ實行スル上ニハ有益ナコ
 トデアル。然シ、現ニ行ハレテキル總テノ保険ガ必ズシモ正確ニ危険
 率ヲ計算シ、ソノ上ニ組立テラレタルモノデハナイ。例ハ、海難統計
 ノ如キハ今日デヤ、甚ダ不充分デアツテ、之ダケヲ海上保険ノ基礎ト
 スルコトハ殆ト不可能デアル。ソレニモ拘ラズ、千年以前カラ盛ニ行ハ
 レテ居タコトヲミレバ、ソノ間ノ事情ガ明白デアル。

斯クノ如キ場合ニハ危険分散主義ヲ適當ニ應用スレコト及ビ事業ノ
 上ノ経験トニヨツテ、相當ノ見込ミヲ以テソノ事業ヲ営ムコトデアル。
 英國ノ *Lloyd's* 保険團體ニ於テハ、恰モ株式取引所ニ於ケルガ如クニ
 多数ノ保険業者ガ集ツテ、*Broker* ガ持ツテ来ル保険ノ引受ヲ行ツテキ
 ル。ソレガ爲ニ一人ノ引受ケル金額ガ極メテ小額デアリ、而モ之ヲ毎
 日取扱フ故ニ、自ラ損害ノ平均ヲ得ラレルノミナラズ、多年ニ渡ツテ

營業ヲシテ居ル故ニ、自ラ経験上定ツタ料率ガ生ジテ、ソノ事業モ可
 成リ安全確實ニ行ハレテ居ルノデアル。而シテコノ團體ニ於テ定メラ
 レル料率ガ所謂 *London* 保険市場ノ料率ト稱セラレタルモノデアツ
 テ、之ガ全世界ノ海上火災ノ保険ヲ支配スル状態ナノデアル。

之等ノ事情カラ考ヘテミル時ニハ、保険ハ数理上ノ統計上ノ基礎ガ
 確カナモノデアルトイフコトハ相對的の意味ヲ持ツニ過ギナイモノデア
 ルコトヲ注意スベキデアル。ソノ最モ確カナモノハ人口統計ニ基ク生
 命保険デアル。疾病保険ノ如キ稍、之ニ次グト云ヒ得ラレルノデアル
 ガ、其他ノモノニ到ツテハ、統計ハ一應ノ参考ニ成リ得ルトイフ程度
 ニ過ナイノデアル。

第四ニハ法律上ノ制限デアル。國家生活ヲナセル我々ガ凡ユル方面
 ニ於テ法的秩序ヲ保タネバナラヌコトハ勿論デアル。例ハ、民法九〇
 條ニ公序良俗ニ反セザルコトヲ記シテキルガ如ク、又商法三八五條ニ
 被保險利益ノナイ損害保険ノ契約ヲ無効トナス。同ジク三八六條ニ

被保険物ノ實際ノ値ヲ越エテ保険ヲシタ時ニ、ソノ超過部分ヲ無効トスル事ヲ定メ、同ゾク四ニハ條ニ於テ他人ノ死亡ニヨツテ保険金ヲ支拂フミキ生命保険契約ニハソノ人ノ同意ヲ必要トスルガ如キ、何レモ公序良俗ヲ考慮シテ規定デアル。之ヲハ何レモ曾テ弊害ヲ流シタコトアルニ鑑ミテ定メラレテル規定デアル。(Marine Insurance Gambling Act)

二、實行上ノ可能範圍

次ニ保険實行上ノ可能範圍ニツイテ研究スルト、要之ニ保険ノ率及損害高ノ計算ノ難易即チ統計又ハ数理ノ問題ニ帰着スルノデアル。統計的基礎ガ充分デアレバ、ソレダケ安全ニ行ハレ得ルノデアルガ、然ラザル場合ニハ、ソノ事業ハ *speculative* デ、ソノ實行ガ困難ニナル。既述セル如ク保険ハ大數ノ法則(又ハ平均ノ法則)ヲ基礎ニスルモノデアアルカラソノ法則ニ關シテニ、三ノ注意事項ヲコ、ニ考ヘル必要

ガアル。コノ場合ニ

- (一) ソノ研究ノ對象ガ多ケレバ多イ程之ニヨツテ得ラレタ平均數ノ價値ハ次第ニ大キイモノデアアル。
- (二) 各々ノ目的物ガ平均數カラ離レル偏差ガ少ナケレバ少イ程平均數ノ價値ハ大キクナルモノデアアル。
- (三) 觀察ガ正確ニ行ヒ得レバ得ル程、ソノ求メ得タ平均數ノ價値ガ大キイモノデアアル。

等ハ特ニ注意スベキデアアル。故ニ例ヘバ、戰爭危險・地震ノ危險トイフガ如キ、事故ノ發生スル度數ノ少イモノ、又ハソノ發生ガ一地方ノミニ限ラレテキルモノナドニツイテハ、第一ノ理由ニヨツテ保険ノ實行ガ困難デアアル。次ニ事故ノ發生ノ度數ノ不規則ナルモノ、又ハ事故ニヨル損害ノ大小ノ差ノ甚シイモノ、等ニツイテハ、第二ノ理由ニヨツテ保険ノ實行ガ困難デアアル。次ニ事故ガ生ジタトイフ事實ヲ確トルコトノ困難デアアルモノ、又ハ損害額ノ決定シ難イモノ、事故ノ發生ガ人

意ニヨツテ支配サレ易イモノ等ニツイテハ、第三ノ理由ニヨツテ、保険ノ実行ガ困難デアル。之等ヲ具体的ニイフナラバ、例バ失業保険ニ於テ、員ノ失業者ト然ラザルモノ、例ハバ、労働ノ意志ヲ缺イテキルモノ、又労働ノ能力ヲ缺イテ居ルモノヲ區別スルコトガ必要デアル。之ヲ *Control* スル爲ニ、職業紹介所ト連絡ヲ取ツテ、初メテコノ保険ガ実行シ得ル。又資難保険ノ如キハ一方ニハ、警察方面カラ、*Control* ガアリ、他方ニハ帳簿ヲ正確ニ保テキル所ニ向テノミ安心シテ契約ヲ爲シ得ル。又海上保険ノ如キハ、前述ノ如ク再保険又ハ共同保険等ノ保険技術ヲ巧ミニ應用スル事ニヨツテ前述ノ缺矣ヲ補フ方法ヲ取テキル。最後ニ問題トナルノハ保険ノ必要ノ程度トイフ問題デアル。例ハバ損害額ノ余リニ小ナルモノニ對シテハ保険ノ必要ヲ感ジナイ。然シソノ損害が大キクナル畏レアル場合ニ保険ノ必要ハ痛切ニ感ジラレル。従ツテ海上保険、火災保険ノ如キモノハ、當然ノ事トシテ殆ド附帯的ニ凡テ保険ガ行ハレテキルノデアル。但シコノ場合ニ損害ノ大小トイ

フコトハ、人ノ負擔能カト相對的觀念デアルカラ、貧民ニトツテハ小類ノモノト雖モ保険ノ必要ヲ知ルノデアル。之ハ各種ノ社會保険ガ必要トセラレ、而モ國家ノ政策トシテ、強制保険トサヘセラレテキル理由デアル。次ニ事故ノ發生ガ不規則デアル場合ニハ個人的準備ガ困難デアルカラ益々保険ノ必要ガ痛感サレル。之ハ戦争危険トカ、地震ノ危険等ニ對スル保険ヲ要求スル所以デアル。之ニヨツテミル時ニハ損害額が大トナル畏レガアル。而モ事故ノ發生ガ甚ダシク不規則デアルモノニ對シテ、世人ハ保険ノ必要ヲ強く感ズルニモ拘ラス。コノ種ノ保険ハ實行困難ナモノデアル。従ツテ一定ノ財産ヲ限度トスル株式會社等ニ於テ、之ヲ行フコトハ困難デアルガ故ニ、國家ノ活動ニ待ツ必要ガアル。勿論國營保険ガ必ズシモコノ場合ノミニ限ラナイコトハ後述スル。兎ニ角コノ問題モ一ツノ考慮セラルベキ点デアルト思フ。

第三章 保險事業ノ淵源

一、互助的組合トシテノ淵源

保險事業ガ如何ナル源カラ流レ出テ来タカヲ考ヘテミルコトハ、今日ノ保險事情ヲ了解スル上ニ有益ナ端緒ヲ其ヘルモノト思フ。先ヅ一方ニハ相互救済ノ精神カラ知人ガ團結ヲスルトイフ自然ノ人情カラ發シタモノガアル。斯クノ如キ精神ハ人々ガ固有ニ具ヘテキルモノデアルカラ精神上ノ問題ニ關シテモソノ現レガ見エルガ、財産上ノ問題ニ關シテハ經濟生活ガ多少進ンデ、アル事故ノ發生ガ人々ニ不安ヲ其ヘルニ到ツタ以上ハ常ニコノ精神ニ基イテ經濟上ノ施設ガ存在スルノデアル。古代ハ記録ガ不備デアルカラソノ事情ガ明カデハナイガ、多少トモ記録ガ具ハツテキル歴史の時代トナルト、例ヘバ古代ノバビロニ

マナドニ於ケル記録ニモ同ジ地方ノ人ガ互ニソノ不幸ヲ救済スル經濟上ノ制度ガ備ハツテ居タノデアアル。サテローマ時代ニナルト、記録モ可成リ精確ニ傳ハツテ居ルガ、當時 *Collegia* ト稱サレタモノガ存在シテキル。之ハ宗教家又ハ職人又ハ單純ナル隣人ノ結合デアツタガ、宗教的色彩ヲ帯ビテ居テ、ソノ團體員ハ互ニ出資ヲシテ困難ヲ救ヒ合ツタノデアツタ。中世ニナルト同ジ思想ガ同業組合(ギルド)ノ上ニ表ハレテキル。元來是ハ營業上ノ利益ノ保護ヲ主タル目的トスルモノガ多カツタノデアアルガ、中ニハ單純ナ社交的ナモノモアツタ。何レノ場合ニ於テモ、宗教的色彩ヲ帯ビテ居テ、ソノ本來ノ目的以外ニ病氣、火災、死亡等ノ場合ニ互ニ救ヒ合ツテ居タノデアツタ。是ハ既ニハ世紀ノ頃ニ存在シタコトガ記録サレテ居ルガ、最モ良ク發達シタノハ十三・四世紀ノ頃デアツタ。近世ニナルト自由思想ガ人心ヲ支配スル様ニ成リ、都會ニハ營業ノ自由ガ認メラレ、農村デハ居住移轉ノ自由ガ認メラレ、遂ニ屢制的ナギルドガ滅ビルコトニナリ、人々ニ經濟活動ノ

自由が認められ、ニ到ツタノデアアル。ソノ代リニ労働者ニトツテハ、生活ノ不安ガ之ニ伴ツタノデアツタ。即チ契約ノ自由、從ツテ備入及解雇ノ自由ガ存在スルタメニ労働階級ハ病氣又ハ失業ニ脅カサレ、ソノ他ノ事故ニ依テ甚ダシイ生活ノ不安ヲ感ズルニ至ツタノデ、コ、ニ共済組合ノ制度ガ自ラ發達シテ来タノデアツタ。發達ノ状態ハ英國ニ於ケルガ如ク單純ナル自由意志ニ基クモノアリ、又獨逸諸國ノ如クアル程度迄法律上ノ強制ニ基イタモノナド事情ハ必ズシモ同ジデナイガ免ニ角コノ共済組合ノ方法ニ依テ労働者ガ他日ノ準備ヲスルトイフ事ガ各國ニ於テ可成り盛ニ行ハレテ来タノデアアル。ソレテ一方ニハ社會政策ノ思想モ高マツテ来タノデ、遂ニ是ガ現今ノ如ク社會保險労働保險ノ制度トナツテ國家的政策ニ迄發展シテ来タノデアツタ。是ニ就イテハーハハノ年代ニ於ケル *Bismarck* ノ政策ガ著シイ出来事トシテ注意セラレルノデアアル。即チ當時彼ハ各國ニ先立ツテ疾病保險法、災害保險法ヲ制定シテ是ヲ多數ノ労働者ニ強制スルコトニナリ、續イテ是ラ

ノ法律ノ適用範圍ヲ擴張シ、又更ニ老衰者及廢疾者ノ爲ニスル老廢保險法ヲ制定シタノデアツタ。是ニ刺戟サレテ獨逸系統ノ諸國デハ直チニ是ニ倣ツタノデアツタ。佛英ノ如キ西ヨーロッパノ諸國デハ法律上ノ強制主義ニ對シテハ、彼等ノ自由思想ニ反スルモノトシテ是ヲ輕視シテ居タガ、同様ノ施設ノ必要ハ認めタノデ、補助自由主義ノ立場ヲ取ツテ一定ノ條件ニ適合スル是ラノ團體ニ對シテ補助金ヲ與ヘルコトニヨツテソノ發達ヲ助長シタノデアツタ。併シニ〇世紀ニ入ルト益々労働保險ノ必要ヲ認めルニ到リ、是等ノ諸國ニ於テモ次第ニ強制主義ヲ取ルニ到ツタノデアツタ。諸以上ノ如キハ主トシテ消費經濟又ハ家庭經濟ノ方面ニ於テ主トシテ現ハレタモノデアアルガ、生産經濟ノ方面ニ於テモ或ハ蓄産者ガ相互扶助ノ目的ヲ以テスル家蓄保險組合、山林業者ノ森林火災保險組合、船主ノ海上保險組合(是ハ一般ノ保險會社ガ負擔シナイ特殊ノ場合ニ具ヘルタメニ船主ガ組織セル組合)等ノ如キモ又相互扶助ノ精神カラ出タ團結デアアル。

二、營利企業トシテノ淵源

第二ノ淵源ハ、損傷ノ引受ヲ營業的ニ行ツタモノデアル。是ハ海上保險ニ源ヲ發シテキレ。昔ハ造船術モ航海術モ幼稚デアツタニモ拘ラズ、地中海ノ沿岸諸國ニ於テハ、盛ニ通商ガ行ハレテキタ。然ルニ之等ハ甚ダ冒險的デアツタカラ、ソノ初メニハ金融業者ガ「冒險貸借」トシテ金融ヲ興ヘタ。是ハ利率ガ普通ヨリモ高イノデアルガ、萬一船舶又ハ商品ガ海難ニ遭ツタ時ニハ、ソノ債務ガ免除サレル。ソノ代リニ無事ニ帰ツタナラバ、着シイ利益ヲ收メル事ガ出未ルノデアルカラ、斯クノ如キ高イ利息ヲ拂フ事ヲモ苦痛トシナイデ通商ガ盛ニ行ハレタ。是ガ現今ノ海上保險ト形式ガ逆デハアルガ、經濟上ノ作用ハ全く同一デアツタ。コノ方法ガ紀元前ノ時代カラ引續キ存在シ、後ニ次第ニ發達シテソノ方法及ビ名稱モ遂ニ今日ノ海上保險ニ變化シテ来タノデアツタ。ソシテ一八世紀ノ末ノ頃迄ハ海上保險ガ獨リ盛ニ行ハレテ居タノデ、單ニ保險トイヘバ海上保險ダケヲ意味スルノガ普通デアツタ。

然ルニ近世ノ資本主義經濟ガ次第ニ興ルニ及ンデ同ジ方法ヲ陸上ノ諸危険ニ及ボスコトニナリ。先ヅ火災保險ガ營業トシテ行ハレ、續イテ生命保險其他ノモノモ發達スルニ到ツタノデアアル。而シテ現在ニ於テハ斯クノ如キ種類ノ保險ガ原則ト考ヘラレテキルノデアアル。

三、公營事業トシテノ淵源

第三ノ淵源ハ公營保險デアアル。是ハ一般ノ國民思想、又ハ經濟發達ノ狀況等ニヨリテ異ナルモノデアアルカラ、例ヘバ英國ノ如キハ公營保險ヲ殆ド見レコトハナイ。併ラ獨逸系統ノ諸國ニ於テハ、割合ニ早クカラ公營ガ行ハレテ居タ。カノ十七・八世紀ノ頃 *Mercantilism* ノ思想ノ盛ナ時代ニ國家又ハ君主ハ國民ノ保護者デアルトイフ所カラ、例ヘバ火災ノタメニ多數ノ貧困者ヲ生ズルコトニ對スレ救済策トシテ公立ノ火災保險所ガ各地ニ設ケラレタ。中ニハ是ヲ強制保險トシテ所サヘモアルノデアル。又同ジ思想ガ農業ノ上ニ現ハレテ、家畜生命保

險、農作物ニ對スル電害保險、竊盜保險等ガ公共保險所ニ於テ行ハレテ居
 ルノデアル。後ニ到ツテ、社會政策ノ思想カラ國家的保險ガ盛ニナツ
 タコトハ前述ノ如クデアル。勿論時ト所ニヨリテ公營保險ハ種々ナル
 理由カラ行ハレテキル。例ヘバニュージーランドノ國營火災保險ハ民
 業ノ料率ヲ制ヘルタメニ、競争的ニ是ヲ營ミ初メタノデアツテ現在モ
 繼續シテ居ルノデアル。又同國ノ國營生命保險ハ交通ノ不便デアツタ
 時代ニ、同地ニ支店ヲ持ツテ居ル会社ガ本國ト本店トノ間ニ契約ノ締
 結ニ不便ガアツタノデ、遂ニ同國民ノ希望ニヨツテ國家事業ヲ起シ、
 ソレガ今日ニ續イテ居ル。伊太利ノ國營生命保險ハ表面ノ理由ハ、ソ
 ノ收益ニヨツテ社會政策ノ費用ニ當ラルコトニアツタガ、實際ニハ同
 國ノ保險料ガ余リ盛デナク、独佛等ノ会社ガ盛ニ行ツテキタソノ事業
 ニ壓迫ヲ加ヘル事ニアツタ事ト思ハレル。ソシテソノ方法トシテハ民
 業ノ存立ヲモ慮分認メテ、ソノ營業ノ一定割合ヲ必ズ國家ニ讓ルコト
 ヲ命ジ、而モソノ割合ヲ漸増シテ、約十年ノ後ニハ國家ノ独占ニ歸ス

ル計劃デアツタ。近年ニ到ツテコノ方針ヲ改メ官民併存トスルニ至ツ
 タノデアル。最近ニ歐州戰爭ノ間ニハ各國ガ海上保險事業殊ニ戰爭危
 險ニ對スルモノヲ國營トシテ、通商航海ノ安全ヲ計ツタ。戰後ニ到テ
 ハ海上發展ノ一ツノ策トシテ輸出信用保險ヲ或ハ國營ト成シ、或ハ特
 別ノ保護策ヲ採ツテ居ル。又經濟的國家主義カラシテ、保險事業ノ盛
 デナイ諸國ニ於テ再保險事業ヲ國營ニシテ、保險ノ海外流出ヲ妨ゲマ
 ウトシテキル。其他種々ナルモノガアルガ、問題トナルノハ、國民ノ
 經濟活動ニ對スル國家ノ任務トイフ根本問題デアル。而シテ自由主義
 ト國家主義トノ見解ノ差ニヨツテソノ解決ハ可成異ナルデアウト思
 フ。

以上述べタ如ク保險ノ源トシテ先ヅ第一ニ互助的小團體ト、資本主
 義的總利会社トノ存在ヲ見ル。又他方ニハ民業ニ對スル公營事業ヲ見
 ルノデアル。是等ガ相交リテ今日ノ社會ニ夫々ノ分野ヲ占領シテ居ル
 ノデアル。ソノ領域ハ自ラ明カデアルガ、コ、ニ中間ノ制度トシテ相

互保險會社ナルモノガアル、コノ相互會社トイフ組織ハ保險事業ニ特
 有ナモノトシテ認メテキレモノデアルガ、ソノ精神ハ小規模ノ互
 助組合ト同一デアルケレドモ、事業ノ範圍ヲ全國的ニ擴メテキル故ニ
 ソノ成員ノ間ニ道德的結合ヲ見ルコトヲ得ズ、而モ大企業トシテアル
 程度近資本主義的ニ經營サレテ居ルモノガ現ハレテキル、吾國ニハ法
 律上ハ諸種ノ保險ニコノ組織ガ可能デアルガ、實際ニハ生命保險ニノミ
 少数存在シテ居ルニ過ギナイ。

第四章 保險者ハ保險事業ノ主体

歐洲ニ於ケル保險事業ノ沿革ヲミレト、海上保險ノ如キハ始メハ個人
 ノ營利的企業トシテ行ハレ、後ニ會社組織ノモノガ起ツタノデアル、生
 命保險モ初メハ「ギルド」其他ノ共済的組合ニヨツテ行ハレテキタケレドモ

之ハソノ發達ニハ自ラ限度ガアリ、大企業トナルコトハナカツタノデ
 アルガ、後ニ至リ海上保險ノ影響ヲ受ケテ個人企業者ニヨツテ海上保
 險同様ニ行ハレテ居タガ遂ニ會社組織ノモノガ生ズルニ到ツタノデア
 ル、火災保險ニツイテハ、獨逸系統ノ諸國ノ公立火災保險ノ特例ヲ除
 イテハ、一般ニ生命保險ト同ジ道ヲ辿ツタ、斯クノ如キ歴史ニ依ツテ
 モ明カナル如ク、保險事業ハ大規模ノ組織ニヨツテ大量のニソノ事業
 ヲ行フ事ニヨツテ益々大數ノ法則ガヨク働イテ表ルノデアルカラ、ソ
 ノ事業主体即チ保險者ハ、確實ニ財政的基礎ト永續スベキ事業組織ヲ
 必要トスル、故ニ我國ノ私營保險業監督法デアル所ノ保險業法ニハ、
 株式會社トニ限ツテ是ヲ行ヒ得ルト定メテアル、株式會社ガ現今ノ經
 済界ニ於テ最モ適當ナ企業組織デアルコトニツイテハ説明ノ云ヒ様ガ
 ナイ、ソノ法律關係ニ就イテハ商法ニ定メテアルガ、保險業法ノ中ニ
 多少ノ特例ガアル、併シソノ殆ド全部ハ手續キ的ノ事デアルカラ、コ
 ノニ説明ハ省略スル、次ニ相互會社ナルモノハ、保險事業ニ限ツテ認

メラレテモノデアル。ソノ精神ハ大体ニ於テ産業組合等ト同ジク、ソノ團體員ノ共同ノ利益ヲ保護スル目的ヲ以テ作ラレタ非營利的ノ協働組合 (Co-operative society) ノ一種デアル。吾國デハ産業組合法ニ於テソノ法律ノ支配ヲ受ケル團體ノ活動ノ範圍ヲ限定シテ居ルケレドモ、斯クノ如キ協働主義ニ基ク團體ノ活動ハ更ニ廣イ範圍ニ行ハルベキモノデアルガ、然シ我國デハ産業組合法ノ支配スル以外ノモノニツイテハ、幾多ノ特別法ガアツテ例ヘバ、住宅組合法等ニヨツテ定メラレテキルノデアルガ、將乘斯クノ如キ種類ノ組合運動ヲ密ナラシメル為ニハ統一シテ法制ガ必要デアルト思フ。扱コノ相互會社トイフ組織ハ必ズシモ保險事業ニ限ツテコトデハナイノデアツテ、銀行其他種々ノ方面ニ之ヲ設ケルコトガ出來ルニモ拘ラズ、現在ノ法律デハ、之ヲ保險事業ニツイテノミ認メテ居ルノデアル。之ハ社員相互保險ヲ行ヒ、ソノ共同ノ利益ヲ増進スルコトヲ目的トスル會社デアル。ソレガ非營利事業デアルガ故ニ登録税・營業稅等ニツイテ特別ノ恩典ヲ受ケテ居ル。但シ会社反商人ニ關スル

商法ノ規定ヲ之ニ準用スルコトニ成テ居ル。コノ會社ハ社員トナツタモノガ被保險者トナルコトヲ目的トシテ社員ト成ルノデアルカラ、同人ガコノニ資格ヲ当然ニ持ツモノデアル。是ガ株式會社ノ場合ト異ル一ツノ点デアツテ、ソノ株式會社ノ株主ト被保險者トハ必然的ノ關係ニハメナイノデアル。ソレ故ニ相互會社ノ社員即チ保險者ハ、社員タル資格ニ於テ、會社ノ事務ニ參與スル資格ヲ持ツテ居ル。但シ實際ニハ社員總代會ヲ以テ總會ニ反ヘテ居ル。ソノ結果トシテ實際ニハ、ソノ事業參加權モ有名無実ニナルコトヲ免レナイノデアル。併シ少クトモ名義上ニ於テ社員權關係、保險契約關係トガ不可分ニ結合シテ居ルコトガ一ツノ特色デアル。

第二ニ株式會社ノ資本金ハ、株主ガ出資シタモノデアルガ、相互會社ニ於テハ斯クノ如キモノハ存在シナイ。但シ會社創立ノ初メニ於テ、創立費及ビ會社ノ責任ヲ確保スル資金トシテ、相當ノ金額ヲ是ニ當テルタメニ吾國デハ相當基金ヲ必要トシテキル。コノ基金讓出者ハ會社ニ對シ

テ債権者ノ地位ニ立ツニ過ギナイノチアツテ、株主ノ如ク事業参加権ヲ有スルモノデハナイ。ソウシテ會社ハソノ剰余金ヲ以テ次第ニ是ヲ消却シ、遂ニ基金醸出者才全ク無クナツテ後ニハ、純然タル相互會社トナルワケデアツテ、ソノ財産ハ社員全体ノ共有物ト考ヘラレルノデアルガ要スルニ營利ヲ目的トスル株主ノ無イコトガソノ特色デアル、尤モ會社ノ財政的基礎ヲ弱クセス為人、基金ヲ消却スル爲ニ從テ之ト同類ノ積立金ヲ社内ニ持ツコトヲ必要トシテ居ル。元來相互會社ノ組織ハ必ズシモ我國法ノ如ク定メルコトヲ必要トスルモノデハナイ。米國ノ如ク各州ソノ保險業法ガ異ナル所ニ於テハ種々ノ規定ヲ持ツテ居ル。或ハ基金ヲ全ク不要トスル代リニ、何人以上ノ人ガ何程以上ノ保險契約ヲ申込ンダ場合ニ始メテ會社ヲ設立スルコトヲ得ルト定メテキル例モアリ。或ハ全ク無條件ノ所モアル。然シ我國ノ法律ハ *Massachusetts (Boston 市) 州* ノソレノ規定ト同ジモノヲモツテ居ル。

第三ニ相互會社ノ債務ニ對スル社員ノ責任ニツイテハ、法制ハ無限責

任ト、保險料ヲ限度トスル有限責任及び保債責任即チ保險料ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ有スルモノトノ三種ヲ認メテキル。現ニ日本ニ存スルモノハ悉ク有限責任デアル。即チ全國ニ渡ツテソノ事業ヲ營ムタメニハ社員ノ間ニ道德的ノ結合ガ存在シナイノデアルカラ、社員ノ責任ガ輕クナケレバ、團結ガ不可能デアルガためデアル。コノ意味ニ於テ相互會社ノ事業ガ株式會社ニ於ケルト殆ド精神上遠ヒノナイモノトナツテキル。而モ社員ノ事業参加権ハ有名無実デアル。結局會社ノ事業ガ株主ノ利益ノためニ行ハレテキルノデハナイトイフ点ガ、唯一ノ特色トナルノデアル。而モコノ特色タルマ實際ニ於テハ株式會社ト殆ド差異ヲ認メズ。ソノ理由ハ元來相互會社ノ經營方針ハ剰余金ガアレバ、之ヲ社員ニ拵戻ス代リニ、不足金ガアレバ有限責任ノ會社ニ於テハ、之ヲ追徴スルコトハ出來ナイカラ保險金減額ノ手段ヲ取ルノデアル。併シ斯クノ如キハ、會社ノ破滅ノ基デアルカラ、斯クノ如キ事實ノ生ジナイためニ、保險料ヲ必要以上ニ高メテ置キ、必ズ剰余金ヲ生ズル様ニ作り上げラレテアル。

而モ斯ノ如キ經營ガ世人ノ喜ブ所デアレノデ 株式會社ニ於テモ 之ト
 同一ノ方針ヲ一般ニ採用シテ居ル。而モ株式會社ノ株主配当ナルモノハ
 事業ノ規模ニ比ベテ甚ダ小額デ。殆ド問題トスルニ足リナイノデアアル。
 寧ロ會社ニ保有セラレル資金ガ費カデアツテ、ソノ運用ニ細心ノ注意ガ
 拂ハレテル場合ニ保險契約者ガ受ケル利益配当ガ、最大デアアルフケデア
 ルカラ、結局契約者ノ利害ハ、會社經營者ノ人格マ手腕トニマツコトガ
 最大デアアルノデアアル。相互組織ト株式組織トノ利害ハ實際問題トシテハ
 優劣ノ差異ガナイノデアアル。

(註) 我國業法ニヨルト大体ニ 生命保險事業 損害保險事業ノ二種
 ニ區別分類シテ居ル。損害保險ハ火災・海上等一會社デ數種ヲ兼業
 シテキル。之ト生命保險ハ全然別個ニ分ツテキル。生命保險ハ長
 期(一生涯)ノ契約デアリ 損害保險ハ一年毎ノ短期ノ契約デアリ
 又時ニ纏ツタ事故ニヨル支出等、グツク危險性多イ事業デアツテ、投機
 的デアレカラ之ト生命保險トヲ區別スル。

以上ノ外ニ我國ニ於ケル保險者トシテ注意スベキモノガ若干アル。
 第一ハ國家デアツテ、之ハソレゾレノ法律ノ基礎ニ基イテ事業ヲ行ツ
 テキル。例ヘバ簡易保險法ニヨル遮信省ノ簡易保險又ハ郵便年金法朝
 鮮簡易保險法ニヨル朝鮮總督府ノ簡易保險法健康保險法ニヨル内務省
 ニヨル健康保險、労働者災害扶助責任保險法ニヨル内務省ノソノ保險
 家畜保險法ニヨル農林省ノ家畜保險等ハソノ例デアアル。次ニ特別法ノ
 規定ニ基イテ保險者タルコトヲ認メラレテキル私的團體トシテハ、健
 康保險法ニヨル健康保險組合(之ハ多數労働者ノ在ル工場 鑛山ニ於
 テ自治的ニ組織サレテ居ル團體) 家畜保險法ニヨル家畜保險組合(各
 郡市ニ之ヲ設ケテ、元受契約ヲ行ヒ、ソレヲ直々ニ政府ニ再保險スル
 仕組ミニナツテキルモノ) ハソノ例デアアル。之等ノ他ニ政府ハソノ事
 業主タル資格ニ於テ使用人ノ福利施設トシテ官業ニ附属シテ共済組合
 ヲ設ケテキルモノガ少クナイ。例ヘバ鐵道省ノ現業員組合(内地ニハ
 拾位) (内閣印刷局、陸海軍事業、遮信省、農林省關係使用者ノ共済

組合)之等ハソレゾレ勅令ヲ定メラレテ居ルガ。之ハ一事業内部ニ於テ
 事業ニ附属シテ従業員ノ福利増進ノ目的ヲ有スルニ過ぎズ。決シテソレ
 ガ獨立ノ保險事業ヲハナイトイフ解釋ニヨツテ事業保險同様ノ事業ヲ行
 テキル。コノ外ニ民間ニ於テ斯クノ如キ和的團體ガアル場合ニ商工省ハ
 ニツノモノヲ區別シテキル。一ハ閉鎖セラレタル小團體ニ於テ相互扶助
 ノ事業ヲ営ム場合ニハ事實弊害ヲ認メルコトハ出来ナイカラ。之ヲ黙認
 シテキル。併シ一般公開的ナモノニアツテハ。屢々弊害ヲ流シタ事例ガ
 アルノデ。之ハ保險業法違反トシテ之ヲ取締ツテ居ル。最後ニ外國會社
 ニ關シテハ。必ズシモ保險業法ノ規定ニ依ラズシテ。若シソレガ本國ニ
 於テ合法的ニ許サレテルモノデアレバ。我國ニ於テモ亦之ヲ認メルトイ
 フ原則ノ下ニ之ヲ許シテ居ルノデアル。之ハ業法ニ基イテ依ラレタ勅令
 ノ内ニ其旨ヲ定メテキル。

第五章 被保險者

保險關係ニ於テ前章ニ述ク保險者ニ對スル相手方ヲ廣義ニ於テ被保險
 者ト名付ケル。之ハ保險料ヲ負擔シテ之ニヨツテソノ損害ヲ保險者ニ引
 受ケシメ。事故ガ生ジタ時ニ保險給付ヲ受ケル權利ヲ有スルモノデア
 吾々ハ經濟學上又ハ保險技術ノ上デ。被保險者トイフ言葉ヲ斯クノ如キ
 意味ニ用スルコトニヨツテ。保險者トノ關係ヲ最モヨク了解スルコトガ
 出来ルノデアル。併シコ、ニ注意シナケレバナラス問題ハ法律關係(又
 ハ契約關係)ヲ定メルニ當ツテ商法其ノ他ノ法律ニ於テ斯クノ如キ廣義
 ノ被保險者ヲ更ニソノ關係ニ從テ分類ヲシ。ソレゾレノ立場ニ於ケル被
 保險者ノ權利義務ヲ明カニシテ居ル。例ヘバ商法ノ規定ニ依レバ左ノ如
 ク分類サレテ居ル。損害保險契約ニ在テハ。保險契約者トイフ言葉ハ保

險契約締結ノ時ニソノ一當事者ト成リ又保険料支拂ノ責ニ任ズル者ヲ指ス。ソシテ保険契約ハ例ハ家屋船舶等ノ如キ有体物即チ被保険物デアレバ普通トシ時ニハ責任其他ノ無形ノモノニツイテ保険ガ行ハレルノデアル。ソシテ事故ガ生ジタ場合ニソノ保険契約ニ基イテ受益者ト成ルモノヲ被保険者ト名付ケル。大多数ノ場合ニハ保険契約者ガ即チ被保険者デアルカラ。歐米ニ於テハコノニツノモノヲ被保険者 *The insured* ト称スレバ常トスル。

次ニ我商法ハ生命保険契約ニツイテ。保険契約者トイフ言葉ハ上述ト同ジ意味ニ用ヒテ居ルガ。被保険者トイフ言葉ハ全ク異ル意味ニ用ヒテ居ル。即チ或人ノ生存又ハ死亡ニツイテ。保険ガ契約サレルノデアルガソノ問題ト成レル人ヲ指シテ被保険者ト名付ケルノデアル。ソシテ保険契約ニ基ク受益者ヲ保険金受取人ト名付ケテ居ル。之ヲ上述ノ損害保険契約ト比スルト保険金受取人トイフ言葉ハ生命保険ニ特有ナ名称デアツテ。損害保険ノ被保険者ト同ジ意味デアル。ソシテ生命保険ニ於ケル被

保険者トイフ言葉ハ謂ハズ損害保険ニ於ケル被保険物ニ等シイ立場ニアル人ヲ指スノデアル。斯クノ如ク我商法ハ廣義ノ被保険者ヲ更ニ斯クノ如ク細別シテ居ルノミナラズ。被保険者トイフ同一言葉ヲ場合ニヨリ異ル意味ニ用ヒテ居ルコトヲ注意スマキデアル。勿論同一人ガニツ以上ノ資格ヲ兼ネルコトハ妨ゲナイ。例ハバ私ガソノ所有建物ヲ火災保険ニ附シテ私自身ガソノ保険金ヲ受取ルガ如キハ最も普通ノ場合デアアル。然シソノ家ガ抵當物トナツテ居ル時ニソノ保険金ヲ債権者ガ直チニ受取ル事トスレバ。契約者ト被保険者トハ異ナルノデアル。又生命保険ニツイテイヘバ。私ガ契約者ト成リ。私ノ使用人ヲ被保険者トシテ契約シソノ保険金ハ被保険者ノ死亡ニ當リテソノ相続人ヲ受取人トスルナラバ。三ツノ資格ニ對シテソレゾレ三人ノ人ガ存在スルコトニ成ル。然シ私ガ契約者トナリ。私ガ被保険者ト成リテ。養老保険ヲ契約シ。一定ノ年齢迄生存スレバ。私自身ガ受取人ト成ルガ。ソレ以前ニ死亡スレバ。遺族ヲ受取人トスルトスレガ如キ契約モ生ズレ。借我商法ニ於テハ保険

契約ニ関シテ規定スルニ當リテ、生命保険契約ト損害保険契約トニ分ツ
 テ是ヲ規定シタルガ故ニソノ何レニモ屬セザル種類ノモノ、又ハソノニ
 種ノ性質ヲ併セ有シテ居ル如キ保険契約ニ就テハ何等ノ規定ヲ設ケテナ
 イ。今假リニ之等ヲ指シテ、第三種ノ保険ト名付ケルナラバ、是等ニ對
 スル契約關係ヲ定ムルニ當リテハ、保險約款ニ於テソレゾレ適當ニ規定
 ヲ設ケル必要ガアル。從ツテ例ハ、傷害保險契約ニ於テハ生命保險ニ於
 ケルト同ジ用語ヲ用ヒテ居ル。又郵便年金法ニ於テハ、被保險者ト受益
 者トヲ常ニ同一人ニ限ルモノトナシ。是ヲ年金権者ト名付テ居ル。又健
 康保險法ノ如キ公法關係ノモノニ在テハ、必ズシモ商法ノ用例ニ從フコ
 トナク、場合ニ應ジテ自由ナ言葉ノ使方ヲ為シテ居ル。是ヲ要スルニ
 概々ガ保險ノ技術又ハ經濟ニ關スル方面ヲ研究スル場合ニハ、保險者ニ
 對スル相手方ヲ被保險者ト名付ケルヲ以テ足ルノデアツテ、必ズシモ商
 法ノ用語ニ拘泥スル必要ハナイ。唯商法其他ノ保險契約法、又ハ保險約
 款等ニ於テハ、人々ガ權利義務ヲ明カニスル必要ノタメニ、斯ノ如キ區

別ヲ為シテ居ルノニ止マルノデアル。

第六章 保 險 料

經濟學ノ上テ廣義ニ於テ保險料ト稱スルモノハ、危險負擔ノ對價、即チ
 危險轉嫁ノ對價デアル。例ハ、巴金利ノ内ニ保險料ノ性質ヲモ含ンデ居ル
 トカ、價銀ノ内ニモ又斯ノ如キ性質ヲ一部分含ンデ居ルトカ、或ハ純利
 潤ノ如キハ、企業ノ危險ヲ負擔スルコトニ對スル保險料ナル性質ガ濃厚
 テアルトイフガ如キハ上述ノ如キ意味デ云ツテ居ル。ソウシテ一般經濟
 問題トシテ、保險料ナル言葉ガ、斯クノ如キ意味ニ用ヒラレテ居ルノデ
 アルカラ、保險ソノモノ、性質ヲ理解スルニ當リテモ成可ク危險又ハ損
 害トイフ言葉ヲ用ヒテ説明スルコトガ適當ト考ヘル旨ヲ第一章ニ於テ述
 ベタノデアレ、彼是對照セラレタイノデアル。從ツテ斯ク損害又ハ危險

トイフ言葉ヲ非難シテ、ソノ代リニ欲望ノ充足又ハ需要ノ充足トイフガ如キ廣イ、然シナガラ莫然タル言葉ヲ用ヒテ保険ノ性質ヲ説明スルコトハ必ズシモ適當デナイノミナラズ、寧ロ損害又ハ危険トイフ言葉ヲ學術上ノ用語ト考へ、是ニ恰モ欲望充足、需要充足トイフ言葉ガ含ム内容ト同ジ内容ヲ有スル言葉トシテ説明スル方ガ、理論上實際上最モ適當デアルト考へルノデアアル。

(註) 或類ノ金ヲ銀行ハ預金スル時、一流銀行ヲ利子協定ヲシテ居テ如何ナル銀行モ同一利子デアアル時ハ、何人モ一流銀行ハ預金スルバカリデ、二流ノ銀行ハ預金ハ無クナル。從ツテ一般ニ二種ノ銀行ノ金利ヲ異ラシメ、二流銀行ハ一流ノソレヨリ高い金利ヲ引受ケル。コノ際金利ノ差額ハ二流銀行ノ危険ニ對スル補償トイフ性質ニ於テ看做サレ得ルノデアアル。
又國債地方債一流二流ノ會社ノ社債等ハ、ソノ各々ノ信用危険ニ比例シテ危険補償ガ共ヘラレテ金利ヲ異ニスル。大戰前英政府

ガ London デ公債ヲ發行スル時ハ、金利ハ約二分五厘位デアツタ。所ガ日本政府ガ London デ公債ヲ發行スル際ハ五分ノ金利ヲ附スルコトヲ必要トシタノデアアル。南米諸國ニ於テハ七一八分ノ金利ヲ必要トシタ。コノ差額ハ保険料ノ性質ニ於テ理解サレル。

保険ニ関シテハ、保険料ハ是ヨリモ狹義ニ用ヒラレ、被保險者ガ保險者ニ提供スル金額デアツテ、保險ノ費用ニ當テルタメニ契約上又ハ法律上ノ義務トシテ負擔スルモノヲ保險料トイフノデアアル。コノ場合ニ於テモ保險料ハ、被保險者ガ元來負擔スベキ危険ヲ保險者ニ負擔サセルガ故ニ、ソノ對價トシテ受授サレルモノデアアルコトハ明カデアアル。一般ニハ契約ニ基イテ被保險者ガ是ヲ負擔スルノデアアルガ、例ヘバ健康保險ノ如ク公法上ノ義務トシテ負擔ヲ命ゼラレル場合モアルノデアアル。ソシテコノ注意スベキコトハ、保險料ハ保險者ガ危険負擔ノ對價トシテ受取ルモノデアアル、之ヲ支拂フモノハソノ保險關係ノ相手方即チ廣義ノ被保險者デアアル。ソシテ商法ノ用語ニ從フト保險契約者ガ是ヲ負擔スルノデア

ル。公法上ノ義務トシテ、一定ノ範圍内ノモノニソノ負擔ヲ命ズルコト
 ガ無キニシモ非ズ。例へバ健康保險法ニ於テハ、保險費用ノ約10%ハ
 政府ガ補助金ヲ是ニ共ヘル。残りノ90%ハ原則トシテ、被保險者タル
 労働者ガ45%、ソノ僱主ガ同ジク45%ヲ負擔スルコト、定ムテ居ル。
 斯ノ如キ場合ニ於テハ、被保險者トイフ言葉ガ是等三者ヲ包含スルモノ
 デアルト解釈スルコトガ經濟學ノ上デハ適當デアラウト思フ。今若シ多
 少輕方ヲ變ヘテ、抽象的ニ云フナラバ、元來保險ハ共通ノ危險ニ曝サレ
 テ居ル多數人ガ共同ノ出資ニ依ツテ、共通ノ準備財産ヲ作成スルモノデ
 アルトイフナラバ、保險料トハソノ各人ノ出資スベキ負擔額デアルトイ
 フコトガ出來ル。ソノ出資ガ公平デアルガためニハ、ソノ保護ヲ受ケル
 金額ト、其危險ニ曝サレテ居ル程度トニ應ジテ、適當ナ區別ヲ存スベキ
 筈デアル。從ツテコ、ニ技術上ノ考察ガ入ル。斯クノ如クニシテ技術上
 カラ各人ガ公平ナル負擔ヲナス所ノモノガ保險料デアル。又別ノ見地カ
 ラスルト、現今ノ社會ニ於テハ保險トイフモノハ、一ノ無形財貨即チ一

種ノ商品トシテ一定ノ價格ヲ以テ販賣サレテ居ルモノデアル。從テ保險
 料ハ斯ノ如キ商品ノ賣買價格又ハ市價ナリト考ヘルコトモ出來ルノデア
 ル。又是ハ最も *practical* ナ見解デアルト思フ。保險料ハ被保險者ニ
 取テ一ツノ負擔デアル。カノ租税ノ研究ニ於テ、納税者ガ負擔スル所ノ
 モノガ、ソノマ、ソノ人ノ負擔トナルカ又ハ之ガ他人ニ轉嫁セラレルカ
 否カノ研究ガ為サレテ居ル。是ト同様ニ保險料ニ就テ云フナラバ、大体
 ニ於テ消費經濟ニ伴ツテ存在スル保險ニアツテハ、多クハ保險料ノ納付
 者ガ、ソノマ、ソノ負擔者トナルコトガ常デアルト思フ。例へバ生命保
 險ノ如シ、又火災保險ニツイテモ自己ノ住宅ニ對スル保險ノ場合ノ如シ、
 之ニ反シテ生産經濟ニ伴ツテ存在スル保險ニアツテハ、ソノ保險料ハ生
 産費ノ一部ト考ヘラレテ、例へバ商品ノ價格ノ中ニ包含セシメラレテ、
 消費者ノ負擔ニ轉嫁セシメラレルコトガ通例デアルト思フ。海上保險ハ
 勿論工場トカ商店等ノ火災保險料ノ如キモ亦是ニ相當スル。是等ノ問題
 ハ殆ド研究ヲ要セザリシ程明瞭ナモノデアル。從ツテ一々之ヲ論ズル者

モナイ。唯問題トナルハ、労働者ニ對スル保険殊ニソレガ強制的ノ保
 險デアル場合、ソノ負擔ガ債主ノ負擔トナルカ又ハ労働者ノソレトナル
 カ、又ハ社會一般ノ共同ノ負擔トナツテ、社會連帯ノ思想ガ實現セラレ
 ル一ツノ手段トナルノデアアルカ、或ハ更ニ進ンデ能率増進其他ノ效果ニ
 ヨツテ何人ノ負擔ニモ屬シナイモノデアアルカ、之ニ關シテ社會問題ノ研
 究者ノ間ニ屢々論争サレタコトガアル。一説ニ依レバ労働者ノ負擔ハ、
 賃銀ノ一部トナツテ債主ノ負擔ニ歸スルデアラウ。債主ノ負擔ハ生産費
 ノ一部トナツテ消費者ノ負擔トナルデアラウ。政府ノ負擔ハ租税ノ形デ
 國民一般ノ負擔ニ歸スルデアラウ。何ニシテモ國民一般ノ負擔トナツテ
 社會連帯ノ思想ガ先以テ具体化サレル事ニ成ルデアラウ。然シナガラ最
 後ニハ能率増進ノ效果ヲ生ジテ何人ノ負擔ニモ歸スルコト無ク、唯ソレ
 グケ一般國民ノ幸福ヲ増進セシメル結果ト成ルトイフ考方モアル。

第七章 保険料(續)

保険料ハ被保険者ガ公平ニ負擔セネバナラナイ。従ツテ保険金額ノ多
 少ニ應ズルノミナラズ、危険率ニ應ジナケレバナラナイ。即チ保険料ハ
 保険金ニ掛ケル危険率即保険料デアアル。例ヘバ火災保険ニアツテハ建物
 ノ位置及構造ソノ用途等ニ從ツテ、保険料ガ例ヘバ百圓ニ就イテ石造家
 屋ナラバ二十錢、木造ナラバ五十錢トイフガ如クニ決メラレル。生命保
 險ニツイテハ、主ニソノ年齢ニヨリ差別ガ設ケラレル。海上保険ニアツ
 テハ、船ノ構造、船齡其他ニヨツテ區別セラレル。然シ、時トシテハ斯
 クノ如キ區別ヲ無視シテ均一ノ保険料ガ定メラレテアル場合ガアル。例
 ヘバ、健康保険ニ於テ疾病率ハ年齢ニヨリ大差ハアルガ、凡テノ人ニ同
 率ノ保険料ヲ課シテ居ル。又家蓋保険ニアツテモ、ソノ死亡率ハ年齢ニ

ヨツテ差ガアル。ガ之又同率ヲ課シテ居ル。斯クノ如キハ、一方ハ手續ヲ簡單ニシテ保険ノ善及ヲ計ル。又ソノ經費ヲ節約スル、トイフ理由モアルガ、又一方ニハ相互扶助トイフ根本精神ニ立テ保険事業ヲ行フ所ニソノ存在ノ理由ガアル。然シ斯クノ如キ場合ニハ、道德的觀念以外ニ別ニ所謂逆選擇ヲ防グ様ニ、技術方面カラ注意スル必要ガアル。逆選擇トハ人々ガ利益ノタメニ選擇ヲ行フモノデアルカラ、之ヲ自己選擇トモイフガ、之ヲソノ相手方カラ編ルナラバ、ソノ不利益ニ撰択サレルノデアレカラ、之ヲ逆選擇トイフノデアル。例ヘバ生命保険又ハ疾病保険ニ於テ之ヲ全ク人々ノ自由ニ委シテ置ケバ、病弱者ガ好シク之ヲ利用シ、強壯者ハ遠ザカル故ニ保険事業ハ到底健全ニ営マレ得ナイ。之ヲ豫防スルガ爲或ハ年齢ニ應ジテ保険料ヲ區別シ、或ハ身体検査ヲ行ツテ一定標準ニ達セザルモノヲ拒絶スルガ如キ、或ハ一團體ノ人ヲ包括的ニ保険スルコト、シテ、個人的撰択ヲ加ヘル余地ナカラシメルコトハ、保険技術ノ上カラ必要トサレテ居ルノデアル。

保険料ハ多数ノ人々ニ向テ之ヲ課スル場合ニ、統計ノ上デ又ハ過去ノ経験ニ基イテ一定額ヲ負擔セシメ、是ニ依テ保険者ガソノ損害填補ヲ受合フ事ガアル、之ガ現今保険企業トシテ行ハレテキル善通ノ形式デアル、時トシテハ併シ相互保険ト称シテ、企業ノ危険ヲ保険者ニ於テ負擔スルコトナク、實際必要ナ保険費用ヲソノ被保険者ニ割當テ負擔セシメルモノガアル、コノ場合ニハ大体ニ於テニツノ區別ヲナスヲ要スル。

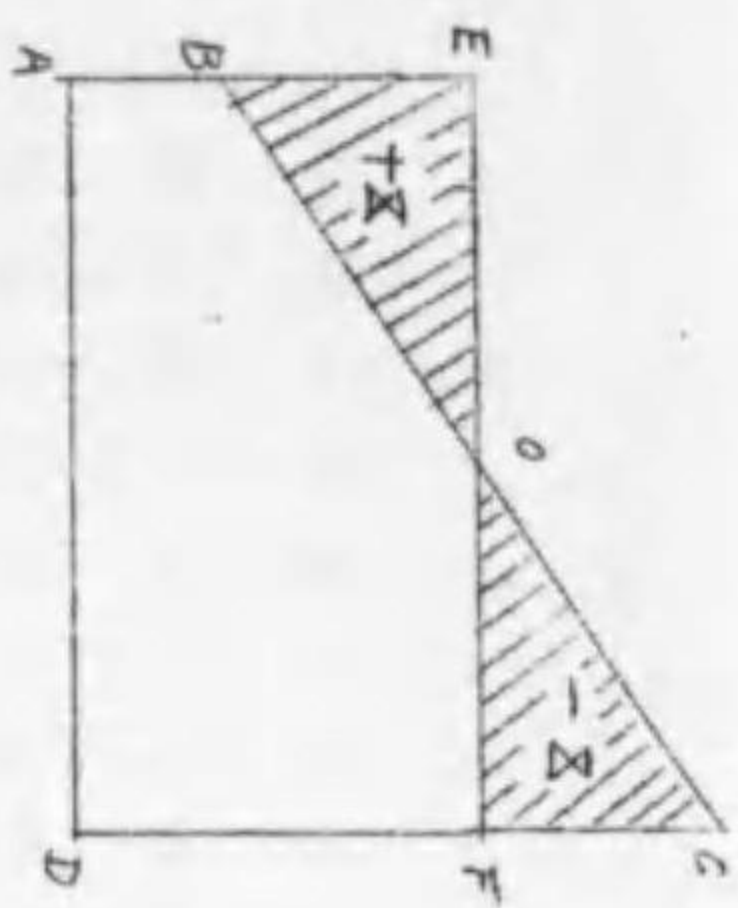
一ハ、事業ノ範圍ヲ全國、又ハ全世界ニ擴ゲ、大規模ニ行テキルガ爲ニ被保険者相互ノ間ニ少シモ道德的連鎖ナク、殆ド一定ノ保険料ニ依テソノ危険ヲ引受ケラレテ居ル場合ト異ナラザルモノガアル。勿論是モ相互會社デアル故ニ、株主ノ如ク營利ヲ目的トスルモノハ存在セザルガ故ニ剰余金ガアルナラバ、之ヲ被保険者全部ニ分配セラレルモノデアル。併シ可成リ正確ナ數學上ノ基礎ニ基キ、而モ大量的ニ行ハル、場合ニハソノ保険料ノ如キモ殆ド一定額ニ止マルノデアル。被保険者ノ負擔ハ株式組織ノ會社ニ於テ保険セラルト殆ド差ヲ見ナイノデアル。斯クノ如キ

場合ニハ保険料ノ負擔ニツイテ、相互會社ト株式會社ニ於テ事實上ニ於テ差ヲ越メズ。之ニ反シテ小規模ノ相互組合ニ在テハ、一方ニハ道德的結合ガ堅イト同時ニ、他方ニハ人数ガ少イノデアルカラ、年々ノ負擔ガ差ヲ生ズルヲ免レズ。コノ場合ニハ屢々賦課式 *assessment* ノ方法ニ依テ保険料ヲ負擔セシメルコトガアル。例ハ先ヅ一定額ヲ徵收シテ、後ニソノ清算ヲスルコトモアル。或ハ他ノ方面カラソノ必要ノ金額ヲ支出シテ置イタ後デ、是ヲ人々ニ割當テ、徵收スル如キ方法モ採ラレル事ガアル。併シ是等ノモノハ比較的小サイ範圍ノ團體ニ於テノミ採用シ得ベキモノデアル。

火災保険ノ如キ短期ノ契約又ハ短期契約ヲ更新スル如キモノニアツテハ、保険料ハソノ保険期間ニ對スルモノヲ一度ニ支拂フ事ガ普通デアル。然シ生命保険ノ如ク長期ノ契約ニアリテハ、保険料期間ト保険料拂込期間ト保険期間ヲ區別シテ考ヘル必要ガアル。例ハバ終身保険ニ於テ、毎年一回ゾツ保険料ヲ拂込ムモノトスレバ、ソノ一回ノ保険料ハ例ハバ今

日ヨリ明年ノ今日迄ソノ保険契約ヲ有效ニ繼續スルケメノモノデアツテ、ソノ一年間ヲソノ保険料ニ對スル保険料期間トイフノデアル。而シテソノ契約ノ保険期間ハ終身デアル。而シテ若シ被保險者ノ生存スル限り、保険料ヲ拂込ム所ノ壽帝終身生命保険デアルナラバ、ソノ保険料拂込期間ハ終身間デアル。然ルニ若シ有限拂込ニ終身保険(例ハバ六十歳迄拂込ミノ如キ)ニアツテハ、保険料拂込ミ期間ハ六十歳ニ達スル迄ノ何年間デアラガ、保険期間ハ終身間デアアル。又若シ一年分ノ保険料ヲ年四回ニ分ケテ拂込ムモノトスレバ、每期ノ保険料期間ハ三ヶ月デアアル。短期ノ契約ニアツテハソノ保険ノ内容トナル危険ガ、ソノ保険期間ノ間ニ變動スル事ハナイ。而シテ是ガ毎年更新セラレテ行ク場合ニモ、例ハバ運物ノ火災危険ノ如キニアツテハ、常ニ同一ノ危険率ガ存在スルモノト考ヘ得ラレルカラ、ソノ保険料モ毎年變動スルコトガナイ。然シ例ハ巴船柏ノ保険ニアツテハ船ノ年齢ト共ニ危険率ガ増加シ、又保険金額ニモ變化ヲ生ズル。從ツテソノ保険料ハ年々變動ヲ免レナイ。然シナガラ短期

契約ヲ更新スルモノデアルカラ、年々ノ保険料ノ負擔ニツイテモ殆ド問題トナル所ナク必要ト保険料ヲ双方協議ノ上デ決定シテ行クノデアル、然ルニ生命保険ノ如キ長期ニ渡ル契約デアリ、而モ保険率ガ年々共ニ増加スルモノニアツテハ、若シ一般ノ公式ニ從テ毎年ノ保険料ヲ定メルヲ、老年ニ至ツテ保険ノ必要ヲ益々痛感スル頃ニ到ツテ、ソノ保険料ハ殆ド禁止的 (prohibitive) ナモノトナル、斯クノ如キハ事實上不適當デアルノミナラズ、保険ノ精神ニモ反スル事デアルガ故ニ、数学上ノ技術ニ依ツテ長期ニ渡ル保険料ヲ平均サセル方法ヲ一般ニ行テ居ル、即チ自然保険料ヲ平準保険料ニ改メルノデアル、斯クノ如クスル時ハ、契約ノ初期ニ於テハ必要以上ノ保険料ヲ取ツテソノ剰余ヲ會社ガ保管シテ置ク是ガ保険料積立金ト稱セラレルモノデアル、然ルニアル年数ヲ經過スルト、ソノ後ハ毎年ノ保険料ガ却ツテ不足ヲ告グルニ到ル、コノ際ニ前期ノ積立金ヲ以テ之ヲ補フガ故ニ結局保険契約全体トシテ、獲得ノナイ公平ナ取扱ヲ為シ得ルノデアル、是ヲ圖ニ示セバ



(註) 例 自然保険料ノ例

保險金×死亡率 (危險率) = 保險料

- 生命保險： = (30歳1時) 1000円 × 0.00718 = 7.18円 (一年間)
- (40歳1時) 1000円 × 0.00935 = 9.35円 (一年間)
- (50歳1時) 1000円 × 0.02028 = 20.28円 ()
- (60歳1時) 1000円 × 0.04373 = 43.73円
- (70歳1時) 1000円 × 0.08283 = 82.83円
- (80歳1時) 1000円 × 0.19044 = 190.44円 (5人：1人死)
- (90歳1時) 1000円 × 0.38983 = 389.83円 (3人：1人死)

□ A E C D ハ、自然保険料ヲ表ハス

E O F 線ハ、Level □ A E F D = □ A B C D

△ E B O = △ C O F 故ニ +Σ ト -Σ ハ、相殺ナレル。

□ E A D F ハ、幾ツテ平準保険料

疾病統計 1911年英國ノ健康保險法制定ニヨリ統計

20 歳	6.307	(一人一年罹病日数)
25 "	6.496	
30 "	7.049	
35 "	7.176	
40 "	10.143	
45 "	12.558	
50 "	16.688	

我國ニ於テハ勞働者一人一年罹病日数ヲ健康保險法施行ニ際シ
年平均十七日ト推算シタ。所ガ実施ノ結果表ハレテ未タノ八年平
均三十日位ニモ及ンダノデアツタ。

第一節 純保險料ノ附加保險料

廣義ノ保險料ハ被保險者ガ負擔スルモノデアツテ、之ヲ營業保險料又
ハ總保險料又ハ表定保險料等ト称スル。然ルニソノ内容ヲ分析スルトニ
ツノ要素ニ分レル。一ツハ保險者ガ引受ケタ危險ニ對シテ保險金ヲ支拂
フタメニ必要ナ金額デアアル。即チ保險ノ原價 *cost price* デアル。之ヲ
純保險料 *net (pure) premium* トイフ。然シナガラ保險事業ヲ営ムタ
メニ必要ナ費用ハ、之ヲ保險料ノ中ニ加算サレナケレバナラナイ。コノ
部分ヲ附加保險料 *loading* ト云フ。仮保險料ヲ計算スルニ當リ、例ヘ
バ生命保險ノ如ク、統計ノ基礎モ充分デアリ又ソノ数学上ノ研究ガ大イ
ニ進歩シテキルモノニアツテハ一定ノ統計ヲ基礎ニシテ純保險料ヲ計算
シ之ニ對シテ合理的ナ附加保險料ヲ附ケ加ヘル。而モソノ附ケ加ヘヲナ

スニ當ツテ事業費ノ内容又ハ性質ヲ分析シテソノ一定ノ費用ハ保険料ニ比例シテ之ヲ附ケ加ヘ、他ノ一部ハ *Constant* ナ費用トシテ人々ノ負担ヲ最モ公平ナラシメル事ニサヘモ努メテ居ル。之ニ反シテ例ハ海上保険ノ如キニ在テハ、單ニ商取引ノ經驗ノ上カラ合理的ト推測セラレルモノガ總保険料トシテ定メラレルニ過ギナイノデアツテ、ソノ内容ノ分析ハ明カデナイ。強ヒテ之ヲ分析スルナラバ營業成績ノ上カラミテ、保険料收入高ニ對シ、損害填補高及事業費高ヲ對照シテ漸ク之ヲ知ル事ガ出来ルニ止マル。而シテソノ中間ニ於テ或ル種類ノ保險ハ相當ノ數學的基礎ヲ持ツモノガアルガ、コノ場合ニハ之ニ依テ一應ノ純保険料ヲ定メ、之ニ對シテ相當ノ安全率ヲ加ヘタモノヲ純保険料ト考ヘ、之ニ對シテ相當ノ割合ノ附加保険料ヲ加ヘテ總保険料ヲ見出ストイフガ如キ程度ニ止マルモノモアル。

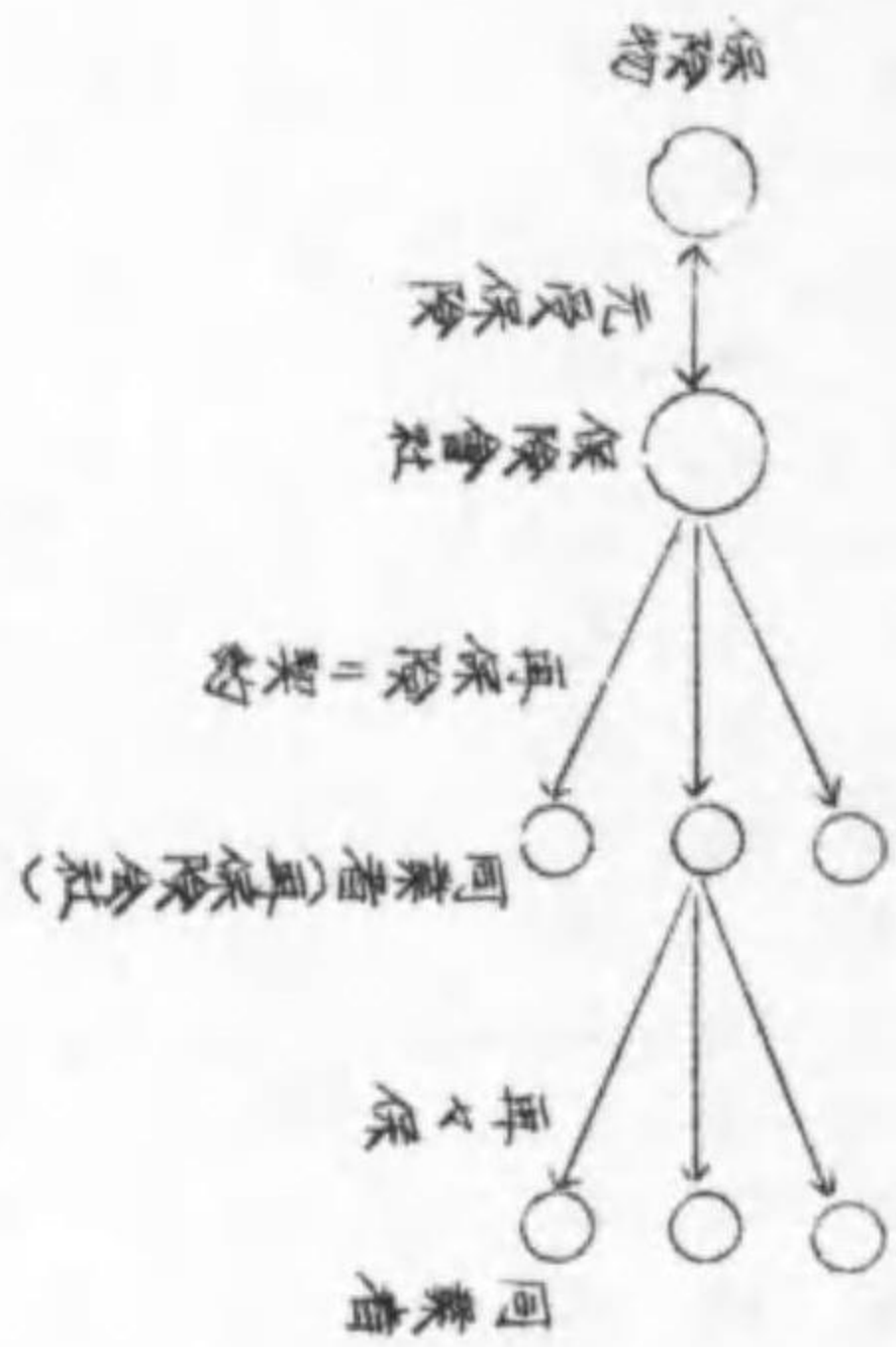
總保險料 *Gross premium*

純保險料 *Net (pure) premium*

附加保險料 *Loading*

備考 火災保險マ海上保險ノ如ク再保險ノ盛ニ行ハレル 事業ニアツテハ、保險會社ガソノ取扱ツテ保險契約(元受タルト再保險タルトヲ問ハズ)ニ就イテ收入シテ保險料ノ總額ヲ *Gross premium* ト云ヒ、ソノ内カラ再保險(又ハ再々保)ノ為メニ支出シテ保險料ヲ控除シタモノ即チソノ會社ガ收入シテ正味ノ保險料ヲ *Net premium* ト云フ事ヲ席トシテキル。

(註) 再々保



第八章 保險ノ分類

我國ノハ保險ヲ大別シテ損害保險ト生命保險トニ種ニ分ツ事ガ普通デアル。商法ノ三八四條及六五三條ハ損害保險契約ヲ定義シテ、實際生ジテ損害ヲ填補スルコトアソノ性質トスル契約デアルコトヲ示シテキル。ソノ目的物ハ例ヘバ建物船ノ如キ有体物デアル事ガ普通デアルガ、時トシテハ損害賠償ノ債務トイフガ如キ無形ノモノヲ對象トスル事モ無イデハナイ。之即チ商法ガ被保險物又ハ保險ノ目的物トイフ言葉ヲ用ヒズシテ保險ノ目的トイフ抽象的ノ言葉ヲ用ヒテキル所以デアル。之ニ反シテ商法ノ四ニ七條ハ生命保險契約ヲ以テ人ノ生存又ハ死亡ニ關シテ一定ノ金額ヲ交付スル事ヲ本質トスル契約デアル旨ヲ定義シテキル。コノ商法ノ區別ニ從ツテ保險ヲコノ二種類ニ區別スルノガ普通デアル。何故ニ商

法ハコノ二種ノ契約關係ヲ區別シテ規定ヲ設ケタカトイフニ勿論双方ニ共通ナ兵ハ種々アルガ、損害保險ノ規定ヲ生命保險ノ方ヘモ準用シテ居ル。然シ異ツタ方面ヲ見ルナラバ、一方ハ財産上ノ問題ヲ主トスルノデアツテ、ソノ損害類及被保險物ノ実價ナドヲ正確ニ評價スル事ガ出來ル。從テ保險ノ本質ニ照シテ実損類ヲ填補スルコトヲ目的トシテ契約關係ヲ規定シテ居ルノデアル。然ルニ生命保險ノ如キ性質ノ保險ハ、ソノ被保險物ノ実價並ニ之ニ加ハラレタ損害ヲ正確ニ知ルコトハ出來ナイ。寧ロ一定事實ノ發生ニ依テ之ガタメニ必要トナルデアウウト予想サレテキル金額ヲ保險トイフ特殊ナ手段ニ依テ準備シテ行ク事ガソノ目的デアル。此處ニ於テコノ二種ノ保險ノ契約關係ニハ種々ノ差ヲ生ズルガ故ニ斯クノ如キ區別ヲ爲シテキルノデアル。殊ニ損害保險ノ中デモ海上保險ハ船・船員・海上運送其他一般ニ海事關係ノ諸問題ト深イ關係ニアルカラ一般ノ損害保險ニ關スル商法三八四條以下ノ規定カラ全ク離レテ六五三條以下ニ特別ノ規定ヲ設ケテ居ルノデアルガ、斯クノ如キハ實際上ノ便

宣ニ出デテ居ルコトデアル。扱斯クノ如ク商法ガ保険契約ヲニ大別シテ結果トシテ此等ノ何レニモ屬セザル保險契約又ハニ種ノ性質ヲ所有セル保險ガ生ズル。斯クノ如キモノニツイテハ商法ガ特別ナ規定ヲ定ムテ居ナイ。元ヨリ商法ノ論纂ハ敍科書ノ編纂ト異ナルノデアルカラ。凡テノ學術上又ハ實際上ノ問題ヲ悉ク網羅スル必要ハナイ。唯實際社會ヲ規律スル上ニ特ニ必要ナ問題ダケヲ取上ゲテ之ヲ成文ノ上ニ明記ラタニ過ナイ。從ツテコ、ニ問題トナルガ如キ種類ノ保險ガアル場合ニ、ソノ保險タル事ヲ否定スル理由ハナイ。コ、ニ於テ吾々ハ第三種ノ保險ノ存在ヲ認メテ得ナイノデアル。而シテソノ契約關係ニ就イテハ恰モ成文法ノ無カリシ時代ニ於テ人々ガ採用シテ居タデアラウ所ノ内容ヲ保險約款ニ定メサハスレバ之ヲ以テ有效ナル保險契約ガ成立スルワケデアル。ソノ實例ヲ舉ゲルト傷害保險契約ニ於テ傷害ノタメニ死亡シタナラバ一定金額ヲ其ヘルトイフ矣ハ生命保險ノ一ツノ場合ヲコ、ニ現ハシテ居ルノデアル。然シ重大ナ頭傷ニ對シテハソノ保險金ノ全額又ハ一定割合ヲ

其ヘルトイフ点ニ於テハ元ヨリ生命保險ニモ非ズ。然シ實損額ヲ填補スル所ノ損害保險デモナイ事明ラカデアル。然ルニ同ジ契約中ノ一ツノ條項ニ於テ治療費ハ實費ヲ負擔スルトイフガ如キ場合ニハ明ラカニ損害保險ノ性質ヲ持ツテ居ル。斯クノ如キハ複雑ナ内容ヲ持ツタ所ノ第三種ノ保險ノ一例デアル。コノ傷害保險ハ單純ニ傷害保險トシテ存在スルノミナラズ自動車保險、航空保險等ノ内容ノ一部(而モ主要ナ一部)ヲナシテ居ルモノデアル。

(註) 人体ニ對シテ蒙ツタ損害ト、物ニ對シテノ損害ヲ區別セネバナラナイ。人ノ身体ニ對スル損害ハ、法律上ノ内容カラスルト損害賠償ノ責任トナル。從ツテ實際上ハ傷害保險デアルカ、損害賠償ノ責任トイフ無形ノモノ、保險ト成ル。自動車保險トイツテモ、ソノ内容ハ會社ニヨツテ異ナル。内務省社會局ノ立案ニ成ル自動車強制保險ハ、自動車ノ他人ニ對スル傷害事故ヲ擴張シ、ソノ場合富裕者ガ責任ヲ取ル場合ナラバ賠償ハ可能デアルガ、損害支拂

能カヲ持タナイ場合ガ最モ多ク、從ツテ被害者ノ受ケタ損害ハ賠償サレナイノガ普通ノ状態デアルノデ、ソコデ運轉免許ヲ失ヘル場合、保険契約ヲソノーツノ條件トセラメントスル。從ツテ強制保険タラシメマウトスルノデアル。社會局ノ案ハ政府ガコノ保險者ト成ルノデアル。之ニ對シアノ反對ハ、從来ノ營利會社ノ營業上カラノ反對、監督官廳カラノ反對等ガアル。

自動車強制保険ヲ行ツタ最モ早イ國ハスウイスデアル。海外カラノ遊覽客ノ自動車ニ對シテ國境ヲ入ル時ニ強制的ニ保險ヲ附セシメル。是ハスウイス政府ガ認メタ民營會社ヲシテナサシムテキル。從ツテ外來人ハ自國ニ於ケル保險ノ上ニスウイス國內ニ於ケルソレトニ重ノ保險ヲナス。第二 *Switzerland* ノ若干ノ州ガ之ニ次イデ自動車保險ヲ行ツタ。マサチユーセツツ州ガ最初デアツタ。アメリカハ人口五人ニ付キ一台ノ割デ自動車ガ用ヒラレテキル。自然事故モ多クナル。從ツテ強制保険ガ実施セラレタノデアアル。

二三年前英國ニ於テコノ自動車強制保険ガ実施サレタ *Road Traffic Act* ハ之デアル。佛蘭西デモ毎年法案ガ論議サレテホルガ、実施ニ到ラナイ。注意スベキハ各國トモ政府事業トシテミハナク、民營會社ヲシテ行ハシメテ居レタメニ、日本ニ於ケルガ如キ問題ガ起ラナイ事デアル。

工場労働者、鑛山労働者、交通事業労働者、電氣事業労働者ニ對シテハ医療保險ガ附サレテキルガ、ソレ等ヲ更ニ擴張セントスル案ガ爲サレテキルノデアル。之等ガ行ハレタナラバ、農民一般中小工業労働者ヲ包含シテ國民保險上ニ起テテ劃スルコト、ナラウ。

第一節 生命保險契約ト損害保險契約 (第三種ノ契約)

又例ハバ徴兵保險デハ或ハ之ヲ生命保險ト解シテ單ニ入學ト云フ條件

ガ附ケ加ヘラレテキルニ過ナイトイフ人モアルガ、然シ商工省ニ於テハ之ヲ以テ生命保険以外ノ第三種ノ保険ト考ヘテキル。之ハ要スルニ斯クノ如キ第三種ノモノニ就テハ他ノ場合ニ於ケル法律ノ規定ヲ参照シツ、各々適當ノ契約ヲ約款ニ定メテ居ルノデアル。而シテ人事ニ關スル保險ニアツテハ生命保険ニ關スルト同様ノ規定ガ設ケラレテ居ルノデアル。我國ニハ未ダ私營事業トシテ疾病保險、出産保險等ハ行ハレテキナイ。西洋ニ於ケルソノ实例ハ殆ド生命保險ニ於ケルト異ラザレ契約ヲ締結シテ居ルノデアル。又他方ニ損害保險契約ニアツテモ我商法デハ先ヅ損害保險一般ニ關スル總則的規定ヲ設ケ、ソノ後デ火災、運送(陸上)海上(運送)保險ニ關シテ特別規定ヲ設ケテ居ルノデアルガ、法律ノ精神ハ必ズシモコノ三種ニ限ル意味デハ無いノデアツテ、實際ソレ以外ニ行ハレテ居ルモノモ少クナイ。又現時我國ニハ存在シナイガ、西政ニハ既ニソノ实例ガアツテ、近ク我國ニ於テモ採用セラレレベシト考ヘラレルモノガ少クナイ。之等ニツイテハ損害保險契約ノ總則ヲ標準トシツ、夫

々ノ保險ニ特有ノ規定ヲ加ヘテ實地ニ行ハレル事ト思フ。火災保險四九條以下、陸上運送四ニ三條、海上運送四五三條。次ニ之等ノ保險契約ノ締結ヲ事業トシテ行テキル場合ノ事ヲ見ルト、保險業法ノ第一條ニ於テ凡テノ保險事業ハ政府ノ特別ナル監督ニ服スル事ヲ明カニシテ居ル。ソノ上デ第四條ニ於テ一ツノ會社ガ、損害保險事業ト生命保險事業トヲ兼業スルコトヲ禁止スルト定メテキル。之ニ依ツテミレバ、保險事業ニ關シテモ生命ト損害ト區別ヲシテ居ルト考ヘラレル。之一方ニハ商法ニ於ケル保險契約トノ連絡カラ未タトイフ意味モ無いデハナイ。然シ主トシテコノ二種類ノ保險事業ノ性質上ノ差ニ着眼シテ同一ノ會社ガ、之ヲ兼營スルコトガ不適當デアルコトヲ考慮シテ結果デアル。元来生命保險事業ハ長期契約ヲ取扱ヒ、殊ニソノ保險料ガ平準保險料ノ方法ヲ(死亡保險ニツイテハ)採テキルノデアリ。又生存保險ハ長期ニ渡ル金額ノ積立トイフ性質ヲ持ツノデアルカラ會社ハ巨額ノ資金ヲ保有シ、之ヲ安全ニ投資スル又ハ運用スル義務ガアル。而モ生命保

險事業ハ、ソノ統計ノ基礎ガ確カデアリ、金額モ概シテ大キクハナイ、支拂保險金ノ如キモ豫定額ト大差ガナイ、斯カルモノデアラカラ、ソノ事業ハ着実ニ行ハレルモノデアアル、然ルニ損害保險事業ノ代表的ナモノ（火災・海上）ニ在リテハソノ性質ガ全ク是ニ反スル。

（註）英國ハ傳統的ニ自由主義ニ立ツノデアラカラ、古クカラ保險事業ガ發達シ、大企業ノ形態ヲ採ツテテ、生命保險、損害保險ガ兼營サレテキル、英國ノ保險會社ハ、ソノ會社ノ名稱ハ軍ニ保險會社トナツテキル、日本ニ於テハ、最初ノ保險會社ハ東京海上保險會社デ、次ニ明治生命保險會社、ソノ次ニ出禾タノハ東京火災保險會社デ、斯クノ如ク保險事業ノ最初カラ明確ニ分離シテ發達シテ来テキル、英國ノ保險會社ハ、生命損害ノ區別ヲ唯會計上ノ區別ニ止マリ、經營者側ニ於テハ何ラ區別無ク、法律上ノ責任モ同一經營者ニ對スルノデアアル、佛蘭西ニ於テハ生命火災ノ保險及傷害保險ガ盛デアツテ、之ハ明確ニ區別サレテキルガ、而モ同一

資本ノ下ニ經營サレ、同一建物ノ内ニ行ハレテキルノデアアル、生命保險事業ノ安全ヲ保護ス、ソノ被保險者ノ利益ヲ擁護スル為メニ兼營ヲ禁止スルモノト思ハレル、

然シコ、ニ問題トナルノハ、ソノ保險ノ種類ガ商法ノ規定ニ從ツテ解釈サレル結果トシテ自ラ第三種ノ保險事業ガ存在セザルヲ得ナイノデアアル、コノ場合モ亦斯クノ如キ事業ノ存在ヲ規定スルモノデハナイ、而シテ實例トシテハ、ソノ保險事業ノ性質ヲ調ベテ損害保險事業的ニ行ハレルモノ、例ハバ自動車保險ノ如キモノハ損害保險會社ヲシテ兼營セシメル、生命保險事業的性質ヲ有スルモノハ、生命保險會社ヲシテ兼營セシメルコト、シテキル、今若シ傷害保險ノ事業ガ我國現行ノモノト異ナル方法ヲ取ツテ長期ニ渡ル生命保險の取扱ヲナスニ至ツタナラバ問題ハ自ラ異ナルコト、成ラウト思フ、兼營禁止ノ一ツノ例外トシテ生命保險ノ再保險事業ガアル、元來再保險契約ハ被保險者ト保險者トノ間ニ締結サレタ契約ノ保險金ヲ過大デアアル時ニ、ソノ保險者ガ是ニ依ツテ負擔スル責任

一部ヲ更ニ他ノ保險者ニ負擔セシメルヲ爲ス保險契約デアル。之ニ對シテ最初ノ契約ヲ元受保險(契約)ト名付ケ、最初ノ保險者ヲ元受保險者トイヒ、後ノ他ノ保險者ヲ再保險者ト名付ケルノデアル。コノ再保險契約ハ事故ノ發生ニ當リ、元受保險者ガ保險金ヲ支拂フベキ責任ノ生ズルニ當ツテ、ソノ責任ヲ保險事故トシテ再保險契約ヲナスモノデアルカラ、元受契約ノ種類ノ如何ヲ問ハズ、再保險契約ハ常ニ責任保險ト考ヘラレ、損害保險ノ一種ト解致サレテ居ルノデアル。從ツテ生命保險ノ再保險モ損害保險會社ガ營ムコトハ法律論トシテモ當然デアル。然シナガラ再保險ノ技術的方面ヲ見ルトソレハ元受保險ノ一部ト成ル。然ラバ生命保險ノ再保險ハ生命保險會社ガ營ムコトガ技術的ニ適當デア。故ニ保險業法第四條但シ書ニ於テ、之ハ生命保險會社ニ於テモ亦營ム事ヲ得ルコトヲ認メテ居ル。斯クノ如ク我國法律上ノ解致デハ生命保險ト損害保險トニ保險ヲ區別スルコトガ原則デアルト考ヘテ居ル。是ハ彌遠法ノ影響ヲ受ケテ居ルノデアル。然シ保險ノ學術上ノ分類トシテ見

ルト第三種ノ保險ガ存在スル事ヲ認メホバナラヌ点ニ於テ、(性質ノ甚ク曖昧ナ)適當ト云ヒ難イノデアル。今若シ他ノ標準デ分類シタラバ如何ニ分類サレルデアラウカ、若シ保險事故ニ依ツテ分ツナラバ、火災保險、疾病保險トイフガ如ク區別ニ成ル。又被保險物(保險ノ目的)ニ因リテ分ツナラバ、家屋保險、家畜保險等ト成ル。又事故ノ生ズル場所ニ因ルナラバ、海上保險、陸上保險ニ區別セラレル。コノ區別ハ佛法系ノ諸國ニ於テ認メラレル區別デアル。海上保險ニ限ツテ昔カラノ慣例ニヨリ商法中ニ規定ガアルニ拘ラズ、其他ノ保險契約ノ規定ガ不文法ノマ、スシク放任サレテ居タ(佛デハ一九三〇年ニソノ他ノ保險契約法ガ制定サレタ)ノデアルガ、斯クノ如ク國ニ於テ陸上保險トイフ名稱ガ存在シタノデアル。然シ之ハ現代ニ於テハ殆ド意味ヲ失ナナイノデアル。何レニモセヨ、上述ノ如ク區別ハ之等區別ヲ凡テノ場合ニ通ジテ行ヒ得ベキモノデモナク、又強イテ之ヲ行フモ何等ノ實益ガナイ。但シ學術的研

究トシテハ、人事ニ關スル保險 *personal insurance* ト財産ニ關スル保

險 *Property Insurance* トニ區別スル事ガ適當デアル如ク思ハレル。人
 事保險ハ生命保險ヲ主トシテ、疾病傷害・出産・痲疾・失業等ノ保險ガソノ傍
 ラニ存在スル。殊ニ小額所得者ノタメニスル人事保險ハ社會保險。又ハ
 勞働保險ノ名ニ於テ、社會政策ノ一手致トシテ重要視サレテ居ル。次ニ
 財產保險ノ主ナモノハ火災・廣義ノ運送（運送保險ト海上保險）各種ノ
 農業保險（收穫保險・雹害保險・家畜保險）ガラス保險・蒸汽機關ノ保險（*Steam*
Boilers）自動車保險・信用保險・再保險等種々ナルモノガ存在スル。

(註) *Steam Boilers* ノ保險

破裂ニヨル *Steam Boilers* 自体ノ損害及建物ニ對スル破損ノ種
 害・人体ニ對スル傷害等色々ノモノヲ含ム。然シ此ノ保險ハ *Boilers*
 ノ保有者等ガ共同シテ *Boilers* ノ定期的検査修繕ノ保險会社ヲ作
 ツテキル。 *Steam Boilers Inspection and Maintenance* 從ツテ *Steam*
Boilers ノ破裂ニヨル損害填補ノ目的ヨリハ豫防的目的デアル。斯
 ル傾向ガ疾病保險ヨリモ衛生設備ノ共同保險・火災消防又ハ豫防

ノ共同保險。又ハ都市計劃ノ保險・海上保險ニ於テハ燈台建設ノ
 保險等。斯ク災害豫防ノ方ヘ進ムノガ保險ノ理想ト思ハレル。

第九章 保險ノ効果

經濟生活ヲ不安定ナラシムル各種ノ危険ニ對シテハ先ツ豫防ニ努メ、
 ソレガ一度生ジタ場合ニモソノ鎮壓ニ努メテ損害ノ発生ヲ輕減スル。抑
 遂ニ發生シタル損害ニ對シテハ貯蓄又ハ保險ニ依テ金錢上ノ準備ヲスル
 事ガ必要デアル。斯クノ如ク保險ハ經濟生活ヲ安定ナラシメルモノデア
 リ。是ニ依ツテ原狀恢復ヲ可能ナラシメルモノデアル。又ソノ保險料ノ
 負擔ハ一定ノ支出項目ト成ツテ豫算生活ヲ可能ナラシメルモノデアル。
 是ガ保險ノ本来ノ效果デアル。然ルニ保險ハコノ根本的效果ノ外ニ尚種
 々ノ附隨的ノ效果ヲ具ヘルモノデアル。而モ場合ニ依テハ、コノ第一ノ

效果が本来ノモノヨリモ却ツテ重要視サレル場合ナハナキニ非ズ、但シ
コノ效果ハ各種ノ保険ニツイテ各々異ナルモノデアルカラ詳細ノ研究ハ
各論的研究ニ譲リコ、ニハ唯全体ヲ通ジテ特ニ注意スベキ若干ノ点ヲ掲
ゲル。即チ

一、財貨ノ担保力ヲ創造シ又ハ増加セシメ、之ニ依テ金融ノ便ヲ得セシ
メル。例ハ建物ニ火災保険ヲ付ケ、船舶ニ海上保険ヲ附ケルコトニ
依ツテソレヲハ初メテ擔保品タル効力ヲ生ズルノデアル。其ノ詳細ハ
説明ヲ要セズト思ハレルガ、唯一ニノ時事問題ヲ述ベルト、例ハバ大
キイ漁船ハ海上保険ノ目的トナツテ居ルガ、一般ノ小漁船ハ金額モ小
サク危険率モ高イガ故ニ海上保険ノ目的トナツテ居ナイ。而モコノ小
船ハ漁業者ニトツテ重要ナル資産デアリ、海上保険ニ依ツテコノ財産
ヲ保護スルノミナラズ、之ヲ担保トシテ金融ヲ得ル事ハ重要ナ漁村ノ
問題デアレガ、ソノ方法無キ為ニ現在農林省ニ於テ此ノ問題ヲ研究中
デアレ、又例ハ巴我國ノ森林ノ立木ノ評價額ハ數十億円ト称セラレテ

居ルガ、是ニ對スル火災保険ガ十分具ハラナイタメニ擔保権ノ目的ト
ナラズ、林業者ハ林業資金ノ融通ニ苦ランデ居ル。多クノ場合ニハ林
地ノミヲ擔保トスルカ、然ラズンバ非常ニ高利ノ金融ヲ得ルニ止マツ
テ居ル。現在我國デハ金融ノ目的ノタメニ森林火災保険ヲ契約スル數
社カアルケレドモ實際ニハソノ契約高ガ極メテ少ナイノデアル。コ、
ニ於テ農林省ハ一方ニハ森林ノ財産價值ヲ保護シ、他方ニハ金融ノ便
ヲ計ルタメニ森林火災保険ヲ計劃中デアル。

(註) 東京ニ本店ヲ有スル会社ガ、僅少ナ保険料ノタメニ地方深山ヲ
調査スル費用ハ到底負担シ得ル所デハナイ。而モ保険料ハ安イ。
何故ナラ森林ソノモノ、利廻リガ性價上安イカラデアル。現在火
災保険ヲ森林ニカケル會社ハ、地方大森林業者ガ勸業銀行ニ金融
ヲ申込ミ、勸業銀行ガ詳細ニ調査ニ基イテ、之ヲ保險會社ヲシテ
保險ヲ附セシム、之ヲ擔保トシテ勸業銀行ニ金融ヲ貸スルノデア
ル。然シ之モ手数多ク、利用ハ少数者ニ限ラレル。從ツテ森林ノ

火災保険ノ問題ハ、國家ノ林業事業政策ノ見地カラナサレバキデアル。森林政策ハ單ニソレノミニ止マラズ、河川、農業、水力電氣ニ對スル治水事業ノ政策上カラモ重要視セラレネバナラナイ。

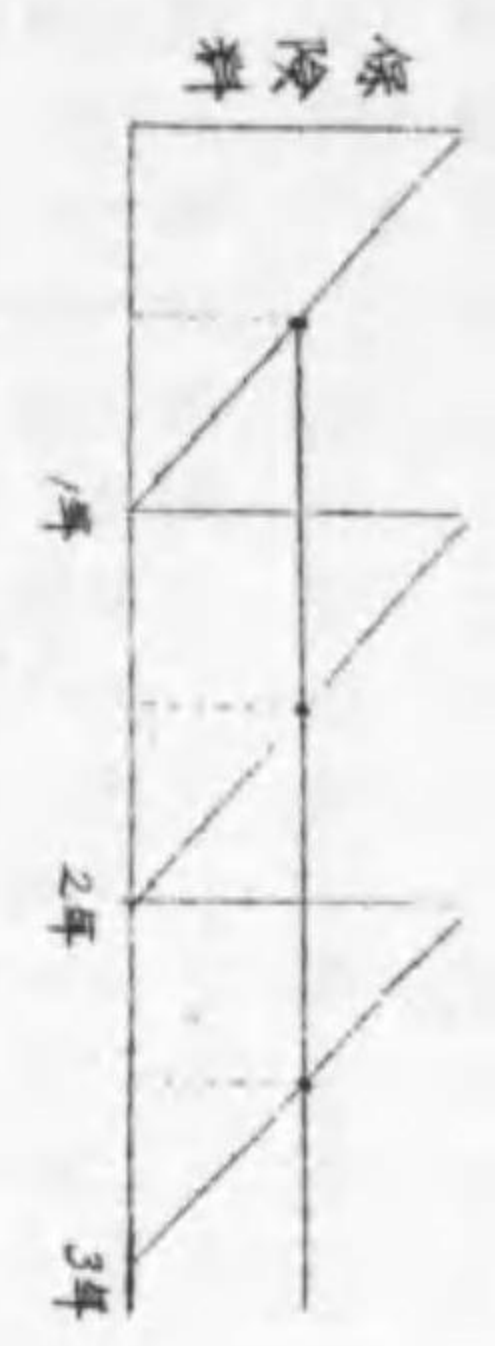
之ニ反シテ、牛馬ノ家畜保險ハ既ニ實現シタノデ、農家ノ貴重ナ財産ガ保護サレルト同時ニ之ヲ担保トスル金融ガ開カレテ来タノデアル。

ニ、金融市場ニ多クノ資金ヲ供給スル事、各々ノ被保險者ノ手ニ於テ、小額ノ資金ガ未ダ資本トシテノ效用ヲ發揮シテ居ナイ時ニ是ガ保險會社ノ手ニ集メラレテ巨額ノ資金トナリ、ソノ運用ノタメニ金融市場ニ投資サレル。コノ問題ハ保險事業ノ經營ニトツテ重要問題デアリ、保險會社ハ一方保險事業ヲ営ミツ、他方ニハ金融事業ヲ営ムモノデア

ル。コノ資金ノ蓄積ハ事業ノ性質上生命保險事業ニ着シイ。從ツテ銀行ト信託會社ト生命保險會社トガ三大金融機關ト称セラレテ居ルノデア

アル。

(註)



損害賠償率ノ平均率ノ算出

損害ノ保險會社ニ於テハ、ソノ契約ガ毎年更新セラレ、從ツテ保險料モ一年毎デアル為ニ、平均シテ保險會社ノ保有シ得ル資金ハソノ年保險料ノ半分ニ過ナイ。

生命保險ニ於テハ、之ト全ク別ノ性質カラ多額ノ資金ガ集マリ、ソレガ投資サレルノデアル。

三、各種事業ヲ起サシムル事

保險業ハソノ本質的効果トシテ各種ノ事業ヲ安全ナル基礎ノ上ニ立タシメルモノデアルカラ、ソノ点ニ於テ各種事業ノ發達ガ保險ニ買フ所大デアル。然シコノ效果ヲ明ラカニ認メルタメニハ保險事業ノ無イ場合ヲ見ル事ニ依ツテ一層良ク現ハレル。例ハ、戦争危険ニ對スル海

上保険ノ道ノ無イ時ニハ(政州大戦)通商航海ガ殆ド杜絶セントシタノ
 チ之ヲ救フタメニ各國政府ガ戰時海上保険ヲ國營トシタ事ノ如
 キ、或ハ戰後ニ於ケル世界市場ノ發展ノタメニ、商業取引ノ危険ニ
 對シテ具ヘル必要上、コノ信用保険ヲ各國ガ或ハ國營トシ、或ハ特殊
 會社ヲ作ツタ如キ例ニ依ツテ、保険ノ初用ヲ知レ事ガ出来ル。前述ノ
 森林保險、漁船保險、家畜保險ノ如キモ、コノ方面ノ初果ヲ得ヘル價値ガア
 レモノデアレ。

四、損害ノ豫防又ハ鎮圧ヲ助ケルコト

保險ハ損害ガ生ジタ後ノ結果ニ對スル手段デアアルガ、元來保險者ハ
 損害ノ發生、即チ保險金支拂ヒノ減少ニ對シテ利害ヲ有スルモノデア
 ルカラ努メテ損害ノ豫防方面ニ努力ヲスル。コノ豫防ハ補償ニ優ルレト
 イフ言葉ハ保險事業ノ一ツノ motto トナツテ居ルワケデアアル。コノ英
 カヲ見テ例ニハ簡易保險局ガ健康相談所ヲ設ケ、社會局ノ健康保險部
 ガ健康相談所ヲ設ケ、事故ノ豫防方面ニ大イナル努力ヲ拂ツテ居ル。

外國ノ例ヲ云ヘバ、火災保險協會ガ火災豫防装置ノ研究又ハ設計ニ當
 リ、或ハ都市計畫ニサヘモ参加スル。又例ニハ汽関保險ガ、保險ヨリ
 モ寧ロ Boiler ノ検査ニ努メテ災害ノ發生ヲ豫防シテ居ルガ如キ、或ハ
 傷害保險協會ガ安全第一運動 (safety first) ニ努力セルガ如キ、其他
 無数ノ例ガアル。

五、社會問題ノ解決ヲ助ケルコト

社會問題ノ根柢ニハ經濟問題ガ横ハツテ居ルノデアアルガ、小額所得
 者階級ノ生活ノ安定ニ依テ社會問題ノ大部分ハ解決セラレルノデア
 ル。コノ意味ニ於テ一ハハ、年台以來獨逸其他ノ諸國ガ、労働保險又ハ社
 會保險ヲ多數國民ニ強制シテ疾病、賣傷、出産、廢疾、老衰、死亡、失業等ノ如キ
 労働階級ノ生活ノ安定ヲ害スル危険ニ具ヘシメルコトナシ。又之ガタ
 メニ巨額ノ費用ヲ投ジテ居ルガ如キハ顯著ナル事實デアアル。即チ社會
 政策ノ一手段トシテ保險ガ重大ナル問題トサレテ居ルノデアアル。

六、最後ニ保險ノ道徳性ニ就テ一言スルト 保險ハ相互扶助ノ制度デア

リ、一方ニハ社會連帶ノ思想ヲ養フモノデアルト同時ニ、他方ニハ自
カニ依ツテ將來ノ準備ヲ為スモノデアリ、自主獨立ノ精神ヲ養フモノ
デアツテ、保險主義 (Insurance principle) 即チ一人ガ万人ノ為ニ、
万人ガ一人ノ為ニ (One for all, all for one) トイフ精神ニ依ツテ社
會ノ道徳性ノ發達ニ貢獻スルモノデアル。

第十章 私营保險業ノ監督

保險事業ハ公益ニ關係スル事大ナルガ故ニソノ事業ハ保險業法ニ依テ
嚴重ニ監督ガ加ヘラレテキル。初メ明治三十三年ニ是ガ制定セラレ、續
イテソノ施行規模ガ定メラレタノデアルガ、明治四十五年ニコノニツノ
モノニ大改正ヲ加ヘタ、ソウシテソノ後數回ノ小改正ガ加ヘラレテキル。
其ノ大様ヲ述バルト我國デハ凡テノ種類ノ保險業ニ政府ガ監督ヲ加ヘル

事ニナツテキル。(業法ノ一條及九條)然シ外國ノ立法ヲ見ルト海上保
險及再保險ノ如キ事業ニハ監督ヲ加ヘナイモノモアル。或ハ生命保險事
業ニ限テ監督ヲ加ヘル例モアル。之ハソノ保險ノ種類、其ノ經營ノ方法
及被保險者トノ關係ヨリ生ズル差異デアル。

(註)海上保險ハ主トシテ船會社貿易會社事業會社ナドニ限ラレ、夫
々専門的立場ニアレ當事者間ノ契約デアツテ、當事者間ノ自由ニ
任セテモ弊害ハナク、又契約モ短期デアル故ニ敢テ政府ノ監督ハ
必要ガ少イト云ヘル。佛ノ如キ生命保險ニツイテノミ監督ヲ行ツ
テ居ル。

次ニ凡テノ保險事業ハ政府ノ免許ヲ必要トスル事ニナツテ居ル。會社
ノ發起人ガ免許ヲ申請スルニハ一定書類ヲ提出スルヲ要スル、之ハ會社
ノ濫設ヲ防ギ且事業ノ基礎ヲ強固ナラシムル爲デアル。現ニ我政府ハ内
規ヲ以テ、生命保險會社ハ既ニ多キニ失セルタメニ新設ヲ認メズ、火災
保險會社ハ助成金問題トノ關係カラ新設ヲ許サナイ事ニシテ居ル。(業法

一條五條乃至八條及九七條)

(註) 現在ノ保險會社ノ設置ハ、改州戰後(大正初年)ノ好況期ニ於テ爲サレタノデアツテ、過多ノタメト戰後ノ不況トノタメニソノ弊害ガ増大シタノデアアル。但シ特別ナル必要アルモノハ新設サレテ居ル。今年モ廢疾・危廢者ヲ對象トスル保險會社及團體保險ノ會社ガ依ラレテキル。

保險事業ハ株式會社ト相互會社トニ限ル。(業法第ニ條)之ニ就イテハ保險者ノ章デ述テ通デアル。會社ノ資本金ハ株式會社ニアツテハ資本十萬圓以上、相互會社ハ基金十萬圓以上ヲ必要トスル。之會社ノ財政上ノ基礎ヲ強固ナラシメルタメデ、余リ小ナル會社ヲ認メナイ趣意デアアル。併シ今日ニ於テハ、一方ニハコノ金額ガ余リ小サ過ぎルカラ、内規ヲ以テ或レ程度以上ト定メテ居ルガ、又他方ニハ特ニ生命保險會社ニツイテハハ事業ノ性質上巨額ノ資本金ヲ必要トセザルノミナラズ、ソノ増資ハ却テ株主配當ヲ多カラシメルノミデアツテ、契約者ノタメニ不利デア

ルカラソノ増資ヲ抑制シテキル。之ニ反シ損害保險會社ハ時トシテ巨額ノ支拂ヲ必要トスル事ガアリ、ソノ支拂能力ヲ確實ニスルコトハ有益デアリ。對外取引モ盛デアルカラ、ソノ信用ヲ確保スルタメニ比較的多少ノ資本金ヲ持ツ事ヲ許サレテ居ル。(業法十六條、二十八條)

(註) 會社ノ資本金ヲ例ヘバ百萬圓トシ、現在ノ運轉資産ガ三億圓アルトスル。コノ中デ株主ノ出資額ハ僅カ百萬圓ニ過ナイ。コノ危険ノ負擔ハ百萬圓ダケデハナイ。銀行ノ業務ト似テ居ル。資本ヲ増セバソノ利益ハ株主ガ所有スル事ニ成ル。從ツテ契約者ニ對スル配當ガ減少スル。從ツテ生命保險會社ニ於テハ資本金ノ増大ハ意味ガナイ。生命保險會社ニ於ケル資本金ハ、別段支拂能力ヲ維持スルモノデハナイノデアアル。極端ニ云ヘバ生命保險會社ニ於テハ資本金ハ不用デアルトモ云ヘルノデアアル。(上ノ数字ハ單ナル仮定デハナク實際ノ例デアアル。)コノ点損害保險會社ニ於テハ性質ガ全ク異ナル。契約者ニ對スル利益配當トイフ事ハ殆ドナク、

コノ事業ニ於テハ利益ハ割合ニ少ク又危険率ガ大デアル。
 アル國デハ事業ノ種類ニ依テ資本金ニ差ヲ設ケテ居ル例モアル。株式
 會社ト相互會社トニ依ツテ之ニ差ヲ認メテ居ル例モアル。之ハ相互會社
 ノ本質ニ照シテ、小規模ノモノヲ設ケサセル精神カラ出テ居ルノデアル。
 併シ我國ノ相互會社ノ如キハアメリカト同様ニ全國的ナ大會社トナリテ
 ソノ本質ヲ失ツテ居ルノデアル。

(註) 我國ノ相互會社ハ非常ニ大キナモノニナツテキル。之ニ對シテ
 併独ニ於テハ極ク小サイ。各地方部落ノミニ限ラレテキルモノガ
 數多存在シテキル。コノ事ハ國情ニヨルト云フヨリハ政府ノ政策
 ニヨルモノデアラウ。斯、ル相互保險ハ將來獎勵サレテ良イノデ
 アル。我國ノ家蓄保險等ハ各地方的ナモノデアルガ、之ナドハ、
 地方住民ノ自發的組合組織トシテ相互會社デアルトイヘル。保險
 政策上之ヲノ普及ガ望マシイ。

同一ノ保險會社ガ生命保險ト損害保險トヲ兼營シ得ザルコトハ前述ノ

通りデアル。(業法四十條)但シ生命保險會社、生命保險ノ再保險ヲ為
 ス事ハ特ニ認メラレテ居ル。此ノ点ニ就イテ生命保險ト火災海上保險ノ
 如キ大規模ノ損害保險事業ハソノ兼營ハ禁止スルガ、中間ノ性質ノモノ
 ハ、生命保險會社ニ於テモ兼營シ得ルモノトスル外國ノ立法例ガアル事
 ハ注意スベキデアル。ソマリ之ガ爲ニ生命保險業ノ利益ヲ害スルコトガ
 無イカラデアル。保險會社ハ他ノ事業ヲ兼業スルヲ得ズ。(業法三條)之
 ニツイテハ兼業ガ保險事業ト密接ナ關係ガアリ、而モソノ兼業ガ却ツテ
 保險業ノ利益ヲ助ケルトイフ事サヘモ禁止セラレルマ否マガ問題デアル。
 我國ニ於テハ大体ニ於テ嚴格ナル解釈ガ採ラレテキル。從ツテ例ハ海
 上保險會社ガ *Salvage* (救助事業日本 *Salvage* 會社) 事業ヲ兼營スル事
 サヘモ認メラレテ居ナイ。併シ例ハ汽汽關係保險會社ガ契約者ノ汽汽ノ檢
 査及修繕ヲナスガ如キ、或ハ生命保險會社ガ被保險者ノ健康増進施設ヲナ
 スガ如キハ現ニ認メラレテ居ルノデアル。

(註) *Salvage* 事業ハ難破船ノ救助、引上事業デ一見船會社ト關係ガア

ル様デアルガ、実ハソウデナク、船會社ハ保險料ヲ受取レバソレ
デ良イノデアツテ、保險會社ガソノ遺難後ノ遺留物ヲ遺理スル事
ニ利益ヲ持ツノデアル。從ツテ *Salvage* 會社ハ海上保險會社ノ一
ツノ別動隊トモイフベキデアル。

併シ會社ガ財産利用ノ手段トシテ或ハ金銭貸付業或ハ貸事務所業等ヲ營
ミ得ル事ハ之ヲ獨立ノ營業ト見ナイデ財産利用ノ一手段ナリト解サレテ
キルノデアル。

(註) 金銭貸付業ハ寧ロ保險會社ノ本質ノ一部ヲ爲スモノデアルト云
ヘル。建物賃貸業ニナルト多少問題ガ起ル。ソノ程度問題デアル
ガ嚴格ニ規制スルコトハ困難デ不問ニ附セラレテキル。

會社ノ資産ノ運用ニ就テハ有利ニシテ確實ナル投資方法ヲ採ラネバナ
ラナイカラ、法律ハ種々ノ制限ヲ加ヘテ先ヅ會社設立ノ免許ヲ申請スル
ニ當テ財産利用方法ヲ記シタ書類ヲ政府ニ提出スルヲ要シ、後ニ之ヲ變
更スルニモ政府ノ許可ヲ要スルノミナラズ、尙業法施行規模十六條ニ詳

細ニ制限ヲ定メテキル。之ニ依ルト國債ノ所有及國債ヲ擔保トスル貸付
ハ無制限デアルガ、其他ノ方面ニツイテハ一方面ニ資産ノ五分ノ一以上
ヲ集注セシムル事ヲ禁止シテ居ル。(業法五條及八條)

ソレハ危險分散ヲ考ヘ又他ノ事業トノ兼業ヲ禁止スル精神ニ照シテ必
要ト考ヘラレテキル規定デアル。併シ資産ノ五分ノ一トイフ制限ハ余リ
ニ大キニ失スル。例ヘバソノ範圍内ニ於テ他ノ會社ノ株式ノ二分ノ一以
上ヲ取得スルガ如キハ容易デアル。然ルニ斯クノ如キハ實ハ他ノ事業ヲ
兼ネルト同様ノ結果ヲ見ルノデアルカラ政府ノ内規ニ依ツテ之ニ制限ヲ
加ヘテ居ル。併シ之ヲノ規定ハ合法的ニ脱法行為ヲナシ得ルニ容易ナモ
ノデアル。

第一節 會計事項

一、責任準備金

保險會社ノ會計ニ関シテハ、例ヘバ商法ノ一九四條ニ定ムルガ如キ法定準備金ヲ積立ツルコトヲ要スルガ如キハ一般ノ會社ニ於ケルト同ジク、然シコノ他ニ保險事業ニ特有ナ規定ガ業法ノ内ニ若干アル。例ヘバ一九條ニハ會社ノ設立費用及初メ五年間ノ營業費ハ十年以内ニ消却スル事ヲ得ル。但シソノ全額ヲ消却シタル後デナケレバ株主配當ヲナスヲ得ズトイフガ如キ規定モアル。然シ保險會社ニ關スル計算ノ問題デ最モ重要ナノハ責任準備金 (Reserve) デアル。業法九五條ニハ保險會社ハ保險契約ノ種類ニ從ヒ、各事業年度ノ終リニ存在スル契約ニ就イテ責任準備金ヲ積立ツル事ヲ要スト規定シアル。之ハ保險者ガ

被保險者ニ對シテソノ保險契約上ノ責任、即チ保險金支拂ノ責任ヲ果スタトニ會社ノ債務ト考ヘテ貸借對照表ノ負債即チ貸方ニ掲ゲル事ヲ要スル金額デアル。其ノ内容ハ二種ニ分レル。一ハ未経過保險料デアリ、他ハ保險料積立金デアアル。ソウシテ損害保險會社デハ前者ノミデアアル。生命保險會社ニ於テハコノ二者ヲ含ムノデアアル。未経過保險料トハ一ツノ事業年度ニ於テ受取ツタ保險料ノ内デ、ソノ年度以後ニ踐ガリタル保險料拂込ミ期間ニ對スル保險料ニ相當スル金額ヲ云フ。例ヘ本年九月一日ニ一ケ年間(保險料拂込ミ期間)ノ保險料ヲ拂込シテ保險契約ガアル時ニ、ソノ會社ガ十二月ノ末ニ決算ヲ行フ時ハ、コノ契約ニ對スル四ケ月ノ保險期間ハ既ニ経過シタルヲ以テ保險料ノ十二分ノ四ハ是ヲ會社ノ所得ト爲シ得ルケレドモ、残りノ八ケ月分ハ翌年度ノ危険負擔ノ對價デアアルガ故ニ會社ノ債務ト考ヘテ之ヲ計算ニ入レル必要ガアル。云フ迄モナク法律ニ積立ツルヲ要スルコトイフ意味ハ之ヲ負債ノ項目ノ中ニ計算スル事ヲ要スルトイフ意味デアアル。コノ未

経過保険料ヲ個々ノ契約ニ就イテ計算スル事ハ煩雜デアアルカラ、一ツノ事業年度ヲ通ジテ *Constant* = 契約ガ行ハレルモノト假定スレバ、凡テノ契約ガ平均シテ年ノ半バニ契約シタモト考ヘル事ガ出来ルカラ年掛ヒ保険料ハ二分ノ一ヲコノ目的ニ充ツルヲ以テ足ル。今若シ半年掛ヒノ保険料デアラハバ、其ノ一年間ニ拂込マレタ保険料總額ノ四分ノ一ヲ之ニ充ツルヲ以テ足ル、尚損害保険會社ニ關シテハ火災保険マ海上保険ノ如ク再保険ガ盛ニ取引サレルカラ、ソノ再保険料ヲ考處ニ入レル必要ガアルカラ、保険業法施行規則ニ七條乃至ニ九條ニコノ規定ガ設ケテアル。又未経過保険料ニ關スルコノ規定ハソノ最小限度ヲ定メテ居ルノデアアル。生命保險會社ハ帝ニコノ最小限デ止メテ居ルガ、火災保險マ海上保険ノ如ク意外ナ大損害ヲ生ズル畏レノアル種類ノ保險ニアツテハ、斯クノ如キ特別危険積立金ヲナス精神ヲ以テコノ未経過保険料即チ責任準備金ヲ可成リ豊富ニ計算シテ居ル。実ヲ云フト斯クノ如キ特別危険積立金ハ獨立ノ項目トシテ計算スル事ガ適當

デアアルガ、斯クスル時ハ留保所得税ヲ課セラレル事トナルガ故ニ責任準備金(無税)ノ内ニコノ性質ノモノヲモ含マシメテ居ルノデアアル。生命保險會社ニ於テハコノ他ニ最モ重要ナ保険料積立金ノ問題ガアツテ、前述未経過保険料ト併セラ責任準備金ヲ構成スル。コノ保険料積立金トハ死亡保險ニツイテイハバ、平準保險料ノ方法ヲ採用スル結果トシテ、會社ニ積蓄サレル金額ガ即チ是デアアル。又生存保險ニツイテ云ハバ、コノ場合ニハ毎年ノ保險金ノ支拂トイフモノガ無いノデアアル。毎年掛込マレル保險料ヲ蓄積シテ、満期ノ時ニ之ヲ掛ヒ出ス性質ノモノデアアルカラ、純保險料ノ全部ガコノ目的ニ當テラレルノデアアル。扱コノ積立金ハ前述ノ未経過保険料ニツイテ述タル如ク凡テノ契約ヲ平均シテ年ノ半バニ同時ニ行ハレルモノト看做スカラ、第一ノ決算年度ノ終リニ於テハ既ニ経過シタル半年ニ就イテ保險料積立金ガ計算セラレ、残ノ半年分ガ未経過保險料トナル。同様ニ第五保險年度ノ終リニハ、四年半ヲ経過シタル契約ノ保險料積立金ト残リ半年ノ未経過

逓保險料トガ計算ナレルノデアル。保險料積立金ヲ計算スルニ當リ、
上述ノ如キ理論上ノ計算額ヲ計上スル時ハ之ヲ純保險料式計算方法ト
云フ。(ソノ理由ハ後述スル)

(註)



一 年々ノ逓減額率 AB

AC 純保險料

CB 附加保險料

AD 一年間ノ危險累積率 (危險保險料)

DC 積立 (積立保險料)

然レニ新契約ノ締結ノ費用ガ相當多ク要スルカラ、小會社ニ在テハ之
ヲソノマ、支出スルナラバ決算ニ赤字ヲ生ズル。從ツテ第一年度ノ積
立金ヲ流用シテ、新契約期ニ當テ、從ツテ第一年度ノ積立金ヲ零トナ
ス。コノ流用額ヲ第二年度以後ニ於テ補充スル。トイフ方法ヲ採ル事
モ合理的ナモノデアルカラ、コノ方法モ我國デハ許サレテ居ル。之ヲ

Pillmen 式計算方法ト名付ケテ居ル。

二、支拂備金

保險會社ハ事業年度ノ終リニ支拂備金ヲ積立テルコトヲ要スル。(施
行規則ニ三條)之ハソノ年度内ニ支拂ノ事由ハ發生シタガ、未ダ請求
書ガ會社ニ届カナイトカ、或ハ調査中デアツテ未ダ保險金ヲ支拂ハナ
イモノ、或ハ支拂事由ノ生ジタル畏レノアルモノ、或ハ保險金支拂ニ
關シテ訴訟中ノモノ等ニ關シテ會社ハソノ支拂ニ當テル目的ヲ以テ相
當ノ金額ヲ貸借對照表ノ上ニ債務トシテ計算スルコトヲ必要ト定メテ
居ルモノデアル。殊ニ問題ト成ルノハ生命保險ノ失効シタルモノニ對
スル拂戻金デアル。即ケ保險料ハ拂込ミノ期日カラ一定ノ猶豫期間ガ
アツテ、ソノ期間内ハ契約ガ有效ニ存續スルモノト見ラレテアルガ、
是ヲ過レバ失効スルノデアル。而シテ相當ノ年數ヲ經過シタ生命保險
ニアツテハ責任準備金ガ蓄ハラレテアルカラ、ソノ場合ニ解約返礼金

ヲ返還スベキデアル。然シソノ請求が無イ時ニハ短期ノ消滅時効ニカ
 ル事ガ定メテ居ル。併シ未ダ時効ニカ、ラナイ間ニ於テハ、ソレニ
 相當スル金額ヲ支拂備金ノ中ニ計上スベキ必要ガアル。尚又失効後相
 當ノ期間内ニ於テハ一定ノ手續キト未拂込保険料ノ拂込ニ依リテ契約
 ノ復活ヲ認めルコトニナツテルカラ、コノ方面カラミテモ支拂備金ノ
 必要ガ了解サレル。

保險會社ガ保險契約者ニ對シテ利益配當ヲ約束シテ居ル事ガアル。
 生命保險ノ殆ド全部ガ之デアル。其他ノ保險ニハ稀デアルケレドモ時
 ニコノ條項ヲ有スルモノモアル。斯カル場合ニハコノ目的ニ充テルタ
 メニ配當準備ヲ積當ル必要アル事勿論デアル。(施行規則三三條)
 殊ニアル會社ノ生命保險契約ニアツテハ確定配當ヲ約束シテ居ルコト
 ガアル。斯クノ如キハ実ハ營業上ノ利益配當トイフヨリモ寧ロ一定金
 額ノ定期的支拂トイフ契約ソノモノデアル。從ツテ保險料ノ計算中ニ
 モ既ニソノモノガ加ヘラレテ居ルノデアルカラ、之ガタメニ特別ナル

準備金ヲ計上スル事ハ必要事項トサレテ居ル。

保險業法ノ九六條及商法ノ四三一條ト四三三條ニハ被保險者ノタメ
 ニ積立テタル金額ニ就イテ規定シテ居ル。商法ハ保險會社ガ保險金支
 拂ノ責ニ任ゼザル時、又ハ解約ノ場合ニ契約者ニコノ金額ヲ返還スベ
 キ義務アルコトヲ定メテ居ル。又保險業法ハ會社ノ破産又ハ解散ノ場
 合ニ、被保險者ハコノ金額ノ範圍内ニ於テ、ソノ會社財産ノ上ニ優先
 權ヲ有スルモノト定メル。而シテ之等ハ何レモ生命保險ニ關スル規定
 デアル。コ、ニ云フ抽象的ナモノハ、責任準備金ヲ指スコト勿論デア
 ルガ、ソレ以外ニ如何ナルモノヲ含ムカトイフ事ハ明瞭デナイ。

(註) *Tuition system* — 例ハ百萬圓ノ公債ヲ一組トシテ、コノ利息

ヲ生存者ニノミ分共スル事ニスル。時ヲ經ルニツレテ、死亡者ノ
 増加ト共ニ生存者ノ享受スル利息ガ増加シテ行ク。年金ト公債ト
 ヲ結び付ケテ方法デ、之ハ西歐諸國ニ於テハ盛ニ行ハレテ居ル。人
 間ノ有スル一ツノ射倖性ヲ巧クニ利用シテ取入レテ方法デアル。

確定配当ノ契約ハ中心的主タル保險契約ニ附隨シテ別ニ一ツノ保險契約デアルトミルナラバ、ソレハ當然責任準備金ノ性質ヲ持つモノデアル。

三、助成金

火災保險會社ニ關シテハ特ニ助成金トイフ問題ガアル。之ハ大正十二年ノ関東ノ大震火災ニ當ツテ、火災保險會社ハソノ普通保險約款ニ依ツテ、地震ノ為ニヨル火災損害ニ對シテハ保險金支拂ノ義務ガナイ事ニナツテ居タ。當時ノ政府ハ寧ろ政治上ノ理由ニ依テ人心ヲ安定セシメル一手段トシテ保險會社ヲ強要シテ任意出捐ヲ爲ス事ヲ余儀ナクシタノデアツタ。而シテ會社ハ契約者ニ對シテ約一割ノ保險金ニ相當スル金額ヲ見舞金トシテ拂ツタノデアツタガ、會社ニハ充分ノ資力ガ無イ為トニ政府ハ約一億圓ニ近イ金額ヲ極ク低利ヲ付年賦償還ノ方法ヲ助成金トシテ交付シタノデアツタ。コノ助成金ハ貸借

對照表ニ債務トシテ計上スルヲ要セザルモノトセラレタ。併シソノ交付ヲ段ケタ會社ハ毎年ノ利益金ノ中カラ一定額ヲ五十年以内ニ政府ニ返還スルヲ要スルモノトナツテ居ル。從ツテ火災保險會社ノ決算報告ニハコノ目的ノタメニスル項目ガ表ハレテ居ルノデアアル。

(註) 保險料ハ全國平均約 5/100 乃至 7/100 ニシカ過ナイ。

外國保險會社ニ對シテハ保險業法ノ中ニ「別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム」ト定メテアル。ソノ勅令「外國保險會社ニ關スル件」及ソノ施行規則トモイフベキ省令「外國保險會社ニ關スル件」ニ依ルト大体ニ於テ内國會社ニ對スルト同様ノ規定ヲ定ムテ居ル。一ツノ特別ノ問題ハ供託金デアアル。外國會社ハ我國ニ於ケル事業ニ就イテ殆ド責任準備金ニ等シイ金額ヲ我國ニ供託ヲシテラク必要ガアリト定ムル。ソノ理由ハ外國會社ガ我國ノ事業ヲ止メタ場合、或ハ戰爭ノ時ニ我國ニ於ケル被保險者ノ利益ハ之ニ依テ充分ニ保障サレル事ヲ考ヘテ居ルノデアアル。而シテ「コノ規定ハ損害保險ニモ生命保險ニモ適用ガアルガ、特ニ生命

保險ニ関シテハ供託金ハ多額ニ上リ、外國會社ニハ重イ負担ヲ課シタ
事ニ成ル、從ツテ之ガ外國ノ生命保險會社ヲ排斥スル結果ヲ見ルニ至
ツタノデアル。

(註) *America* 反 *England* ノ會社ガ多数、コノ規定ノ以前ニ存在
シタガ規定後解散シタ。現在ハ *Canada* ノ會社ガニツアル。(但
シ生命保險事業)

以上十二月十八日冬休迄終リ

昭和十年十二月廿日印刷発行

編輯発行責任者

金 森

豊

印刷 所

東京プリント刊行会印刷部

發行所 東京プリント刊行會

東京市本郷区赤内前

(¥ 0.80)

終